CSRの取り組み

ブラザーグループは、信頼され、未来永劫に繁栄し続ける企業を目指し、長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を積極的に推進します。

INDEX

対談：「真のグローバル化」へのチャレンジ …… 1

■ブラザーグループのCSR …… 7
- ブラザーグループのCSR経営 …… 8
- コーポレートガバナンス …… 9
- 内部統制 …… 11
- コンプライアンス …… 12
- 情報セキュリティー …… 13
- 各地域のCSR課題 …… 14
- CSR・ブランド戦略 …… 18
- 第三者意見 …… 19

■お客様とともに …… 20
- お客様第一の製品開発 …… 21
- 安全・安心な製品設計 …… 24
- お客様ご迷惑率の低減 …… 26
- 物流・販売・サービス体制 …… 28

■従業員とともに …… 30
- 多様な人財の確保 …… 31
- 多様な働き方の支援 …… 34
- 各地域での人財育成 …… 36
- グローバル人財育成 …… 37
- 労働安全衛生 …… 39
- グローバル憲章の共有 …… 41
- 従業員の「誇り度」向上 …… 43

■ビジネスパートナーとともに …… 44
- CSR調達の推進 …… 45
- 仕入先との協働 …… 49
- 物流パートナーとの協働 …… 50
- 販売先との協働 …… 51

■株主とともに …… 52
- IRコミュニケーション …… 53
- 外部からの評価 …… 54

■地域社会とともに …… 55
- グローバルな社会貢献活動 …… 56
- 日本での社会貢献活動 …… 58
- 米州での社会貢献活動 …… 60
- 欧州での社会貢献活動 …… 61
- アジア・オセアニアでの社会貢献活動 …… 62
- 中国での社会貢献活動 …… 63

報告の範囲：ブラザー工業株式会社および国内・海外グループ会社
対 象 期 間：2009年4月1日～2010年3月31日、およびWEB公開（2010年7月28日）までの重要事項
参考にしたガイドライン：GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

対談：「真のグローバル化」へのチャレンジ

ブラザーが「真のグローバル化」を目指して新たなチャレンジを開始した2010年、国連開発計画親善大使を務める紺野美沙子さんにおいでいただき、ブラザー工業社長小池利和がブラザーのCSR経営について紺野さんと語り合いました。

≫ブラザーが目指す、事業の「真のグローバル化」とは

紺野：ブラザーは2010年を「グローバル元年」と位置づけて、今後、「真のグローバル化」を目指していくと伺いました。今も40以上の国と地域で事業を展開していらっしゃるのに、なぜあらためて「グローバル化」なのですか？

小池：確かに、世界各地に拠点を持ち、海外売上が8割を超えているという点では、すでにグローバル化していると言えます。しかし、ブラザーは「未来永劫に繁栄し続けること」を目指しています。そのためには、まだまだチャレンジをしていかなければならないと感じています。

紺野：それは、どのような点で？

小池：開発、製造やマーケティングなど、モノ創りのあらゆる場面で海外拠点の力をこれまで以上に活かしていくことが必要だと考えています。例えば開発においては、今は日本でエンジニアがプリンターや複合機、ファクス、ミシン、工作機械などを開発・設計しています。しかし、今後は中国などの海外の拠点でもこれらを設計できる体制を作っていきたいと思います。その一環として、2010年7月に、ソフトウェアの開発拠点として濱江兄弟軟件（杭州）を設立し、10月から業務を開始します。海外の生産拠点も、これまでは日本人従業員が赴いてモノ創りを指導してきたのですが、今後は現地の従業員が自律して工場を運営する手法に切り替えなければなりません。また、マーケティングにおいても、欧米で成功した現地のノウハウを、アジアや中南米、東欧、中東などの販売拠点に伝承し、市場を開拓していきたいと考えています。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

対談：「真のグローバル化」へのチャレンジ

紺野：そうすると、グループの中での日本の役割はどうなっていくのでしょうか？

小池：日本の拠点には新たなチャレンジをしてもらいたいと思っています。将来的に、ある程度シリーズ化された製品は、海外の開発拠点や生産拠点だけでモノ創りが完結できるようになることを目指そうと思っています。そうなると日本の従業員はこれまで以上に革新的な製品や技術を生み出すことが求められ、プレッシャーもかかりますが、やりがいも大きくなります。

　また、グループ全体が成長し続けるためには、日本でも新しい事業の柱をつくっていく必要があると考えています。その一つとして、通信カラオケ事業を展開している子会社のエクシングが、同じくカラオケ事業を展開する株式会社BMBを買収し、2010年7月1日に新生エクシングとしてスタートしました。今後は楽曲を提供するだけでなく、コンテンツやネットワーク技術を活かした新たなサービスを提供し、事業拡大を目指します。

≫CSR経営の礎「ブラザーグループ グローバル憲章」

紺野：グループ内に、文化や習慣の異なるさまざまな国や地域の方々がいらっしゃると、難しいこともあるのではないかと想像するのですが、いかがですか？

小池：そうですね。ともすればそれぞれが別々の方向を向いて行動してしまう、ということも考えられます。そこでブラザーでは、「ブラザーグループ　グローバル憲章」を制定し、グループ各社とグループ従業員の意思決定と実行に関する「基本方針」と「行動規範」を定めています。お客様をはじめとするステークホルダーの皆さんとの関係についても基本方針を定めており、ブラザーのCSR経営の礎ともなるものです。携帯しやすい名刺サイズの「ポケット版グローバル憲章」を作成して全従業員が携帯しています。

紺野：海外の従業員の皆さんも全員お持ちなのですか？

小池：ええ。全従業員に理解してもらうために26種類の言語に翻訳しました。さらにこの憲章を浸透させていくために、世界中で積極的に研修を実施しており、これまでに延べ6,000名を超える従業員が受講しています。また、浸透度も調査を3年間続けていますが、着実に向上してきました。
この憲章に基づいてグローバルなCSR経営を推進することで、「Brother」を信頼のブランドとして確立し、従業員にとって「心の底から誇りを持てる企業」になることを目指しています。

※「ブラザーグループ グローバル憲章」についてはこちらをご覧ください
　http://www.brother.co.jp/corporate/socienvi/index.htm

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

対談：「真のグローバル化」へのチャレンジ

≫世界中のお客様に満足していただくために

紺野：グローバルに市場を持つブラザーにとって、さまざまな地域のお客様に対して正確できめの細かいサポートが求められると思いますが？

小池：そうですね。ブラザーでは、以前から、お客様から返品・修理のために戻ってくる製品の割合を「お客様ご迷惑率」と呼び、これをゼロに近づけるために、開発や生産、お客様サポートなど、さまざまな部門が一丸となって課題に取り組んでいます。

お客様からのお問い合わせについて、日本では24時間365日対応できるWEBサイト「ブラザーサポートナビ24」を開設しています。また、海外のお客様をサポートする専用WEBサイトとしては「ブラザーソリューションセンター」を設け、19言語で33の国と地域のお客様をサポートしています。2009年度はWEBサイト「ブラザーソリューションセンター」の応答速度のさらなる向上に取り組みました。その結果、ほぼすべての国と地域で、お客様がFAQ（よくあるご質問）の先頭ページを表示できるまでの時間や、取扱説明書のダウンロードにかかる時間を、従来の半分程度まで短縮することができました。

≫人財のグローバル化 ― 国を越えた活発な交流

小池：「真のグローバル化」を果たすには、ブラザーグループの従業員すべてに国際人としての意識を持ってもらうことが必要だと考えています。心を開いて、国籍や人種、性別、言葉の違いを問わずにつきあえるようになることが理想ですが、時間はかかると思います。地道にやっていくしか方法はないので、グループ内で外国人採用や人財交流をできるだけ活発化していこうと考えています。

「トレーニー制度」もその一つで、海外拠点の現地従業員に来日してもらい、半年から1年間、日本人従業員と一緒に働きながらさまざまなことを学んでもらっています。一方で日本の若手従業員も海外のグループ会社などに派遣し、専門知識や語学の習得をしてもらっています。また、日本での外国人採用も進んでおり、昨年は約20名の外国人新卒大学生・大学院生を採用しました。入社前は全く日本語を話せなかった従業員も、3カ月もすると「テリーさん※へ」と、日本語で書いた手紙を送ってきてくれるんです。

※テリーとは、小池のアメリカ時代のニックネームで、いまでもブラザーの社内では、親愛の情を込めてこう呼ばれている。

紺野：従業員の方々との距離がとても近いんですね。

小池：そうですね。イントラネットでの従業員向けのメッセージの発信にも力を入れています。まず「テリーからのMessage」というタイトルで、私の日々の業務内容の発信を通じて、ブラザーの経営の方向性やブラザーに受け継がれているDNAなどを伝えています。このメッセージは現在8つの言語に翻訳されており、最近は動画での配信も始めました。もう一つ、私のプライベートの行動を中心に書いているブログ「テリーの徒然日記」もこの6月に400回目の更新を迎えました。約5年間で400回ですから、年間80回ぐらい更新していることになります。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

対談:「真のグローバル化」へのチャレンジ

紺野:業員の皆さんは、毎回楽しみにしておられるのでしょうね。

小池:そのようで、最近は両方合わせて月に15回くらい決まった曜日に発信していてとても大変なのですが、少しでも更新が遅れると「なぜ今日は更新されていないのか?」と、お叱りを受けたりします。嬉しいことにブラザー工業は、「Great Place to Work Institute Japan」による『2010第4回 日本の「働きがいのある会社」』のベスト25に認定されました。これは、「従業員が会社や経営者、管理者を信頼し、自分の仕事に誇りを持ち、一緒に働いている人たちと連帯感を持てる会社」に与えられるものだそうで、私からのさまざまな情報発信も少しは役に立っているのではないかと自負しています。これからも従業員と積極的にコミュニケーションを図って、しっかりとした信頼関係を築いていきたいと思っています。

≫よき企業市民として地域社会への貢献を目指す

紺野:私は国連開発計画親善大使として、いろいろな国を訪問していますが、発展途上国では、貧困が大きな問題になっています。そうした国々では、雇用を創出するために政府が縫製工場を運営していることがあります。ミシンの使い方を指導して技術を身につけてもらい、所得を得られる仕組みを作っているんです。働く場所があることで希望が生まれ、皆さんとてもいい雰囲気で働いていらっしゃいます。

小池:日本の歴史を振り返ってみても、工業化のさきがけの一つに縫製産業がありました。その意味で、ミシンの持つ意味は大きいと思います。ただし、工業用ミシンはおっしゃったように操作をする人が技能を身につけることが必要で、そのためには縫い方の指導が必要なんですね。ブラザーも工業用ミシンや工作機械を製造・販売していますが、やはりお使いいただいている工場に対して、ミシンをどう使えばきれいに縫えるのか、工作機械をどう使えば効率的に部品を加工できるのかといった技術指導や教育をしています。中でも財団法人「海外技術者研修協会」とは15年以上前からこのような活動で協力関係を結んでおり、2009年度は、バングラデシュとインドの縫製工場で生産管理者向けのセミナーを開催しました。

≫地球環境の持続可能性を維持するために

紺野:地球温暖化などの環境問題に取り組むことも、グローバル企業にとって重要な責任ではないでしょうか?

小池:ええ。ブラザーでも、経営の最重要課題の一つとして位置づけています。温暖化防止については、2020年までの長期的なCO_2排出量削減目標として「国内では、1990年を基準として総排出量で30%削減し、海外工場では、2006年を基準として、売上高原単位で20%削減する」ことを掲げて積極的に取り組んでいます。例えば、ブラザー工業刈谷工場には、発電能力100kWの太陽光発電システムを設置しました。また、ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)でも、2009年度に、屋根を、太陽光線を最大80%反射するものに変更し、冷却装置の稼動を控えることでCO_2排出量削減に取り組んでいます。それ以外にも各拠点でさまざまな活動を実施しています。

紺野:CO_2排出量削減とともに、プリンティング機器のメーカーとしては、カートリッジなど使用済み消耗品のリサイクルも重要な課題ですね。どのような取り組みをされていますか?

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

対談:「真のグローバル化」へのチャレンジ

小池：日本では、「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」に参画し、他のプリンティング機器メーカー各社と共同で使用済みインクカートリッジの回収・リサイクルに取り組んでいます。現在全国3,000カ所以上の郵便局に専用の回収ボックスを設置しており、自治体など郵便局以外への回収ボックス設置も進みつつあります。海外でも、各地の事情にあわせた回収プログラムを実施しています。また、イギリスとスロバキアには、自社でリサイクルセンターを保有し、使用済みトナーカートリッジをリサイクルして再利用しています。

紺野：環境保全活動では、ほかにも岐阜県郡上市で植樹活動に取り組んでいらっしゃると伺いました。郡上市には親戚の家があり、毎年訪れているので、とても身近に感じました。

小池：そうなんですか。私も植樹のために訪れたことがありますが、美しい自然が残る素敵な町ですね。ブラザーは、スキー場の跡地で植樹に取り組んでいるのですが、この冬の大雪の影響で植えた苗木が随分傷んでしまい、今年の春には、その修復にも取り組みました。海外でも、タイではマングローブの植林、オーストラリアでは海洋生物の生態調査に取り組むなどし、各地域で生物多様性の保全にも協力しています。

また2009年には、ブラザーの環境活動の象徴として「BrotherEarth」というロゴとスローガンをつくりました。この「Brother Earth」のもと、ブラザー製品の環境性能、ブラザーの環境方針やさまざまな環境保全活動を、WEBサイト・パンフレット・カタログなどを通じて広く、分かりやすくご紹介していきます。その一環として2010年、「クリック募金」をメインとしたWEBサイト、「brotherearth.com」を立ち上げました。このサイトではブラザーがNPOなどと協力して各地域で取り組んでいる環境貢献活動などを紹介しており、訪問者の皆さんにはその中から共感する活動を選んでクリックをしていただきます。そしてそのクリック数に応じてブラザー工業が、環境貢献活動に寄付をいたします。すでに英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・中国語版がオープンしており、日本語版も9月にスタートする予定です。

紺野：ブラザーやNPOの環境保全活動を、一般市民の皆さんがこのWEBサイトを通じて手軽に応援できるんですね。私も、環境保全に対し自分のできることを見直してみたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

小池：ありがとうございました。

2010年7月

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

対談：「真のグローバル化」へのチャレンジ

ブラザー工業株式会社 代表取締役社長　**小池 利和**

■プロフィール

1979年にブラザー工業株式会社に入社。1982年、ブラザーインターナショナルコーポレーション（U.S.A.）に出向。2000年に同社取締役社長に就任。2005年に帰国し、2007年6月からブラザー工業株式会社代表取締役社長を務める

■対談お客さま

俳優・国連開発計画(UNDP)親善大使　**紺野 美沙子**

■プロフィール

東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒。1980年、NHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロイン役で人気を博す。「武田信玄」「あすか」など多数のドラマに出演。舞台「細雪」(原作・谷崎潤一郎)では三女・雪子役を好演。他に、「オットーと呼ばれる日本人」（作：木下順二）、「きんぎょの夢」（原作：向田邦子）、「現代能楽集イプセン」（作：坂手洋二）などがある。テレビ・映画・舞台に活躍する一方、1998年、国連開発計画親善大使の任命を受け、カンボジア・パレスチナ・タンザニア・東ティモール他、アジア・アフリカの各国を視察するなど、国際協力の分野でも活動中。近著に、親善大使として訪れた国や人々について綴った「ラララ親善大使」(小学館刊)がある。9月（御園座）・11月（博多座）には、「忠臣蔵」の舞台で大石内蔵助の妻・りくを演じる。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループは、「ブラザーグループグローバル憲章」の浸透を通じて、すべてのステークホルダーから尊敬され、従業員にとって心の底から「誇りの持てる企業」となることをめざします。

■ブラザーグループのCSR経営

・すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

■内部統制

・体制の整備と継続的なレベルアップ
・地域統括会社と連携し内部監査を実施

■情報セキュリティー

・情報を適正に管理・保護するために
・情報リスク対応の強化策を推進

■CSR・ブランド戦略

・「グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催

■コーポレートガバナンス

・ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制
・リスクマネジメント

■コンプライアンス

・コンプライアンス体制
・コンプライアンス ハンドブックを発行

■各地域のCSR課題

・2009年度の課題と実績・2010年度の課題

■第三者意見

・ブラザーグループの2009年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

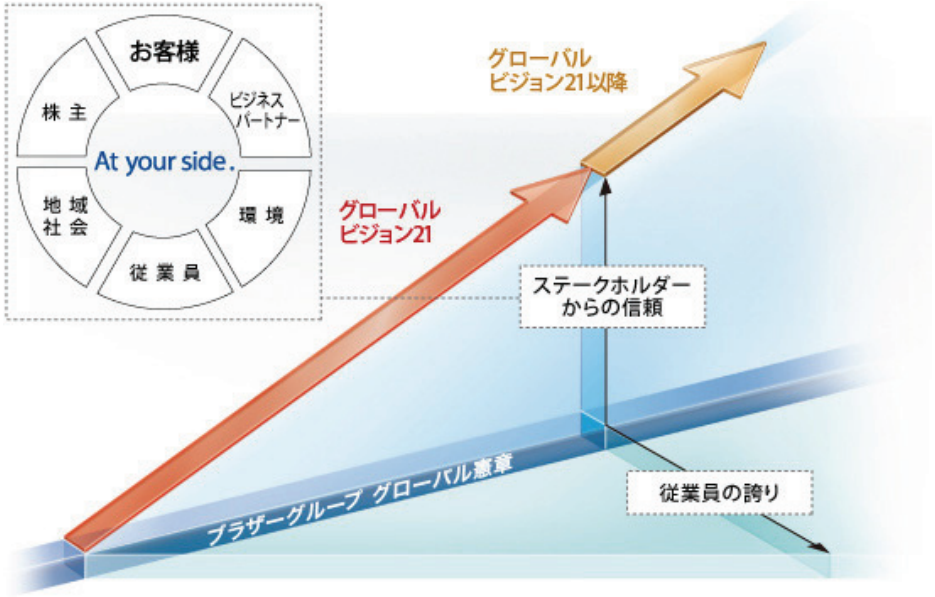
ブラザーグループのCSR経営

■すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進

ブラザーグループは、中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、さらなる事業の成長を目指すとともに、「Brother」を、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバルなブランドとして確立すること、そして、従業員にとってブラザーグループが心の底から「誇りの持てる企業」となることを目指しています。

こうした考えのもと、ブラザーグループはステークホルダーから信頼される活動を一つ一つ積み重ね、持続的に成長していきます。



ブラザーグループのCSR経営

ブラザーグループは1999年、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ グローバル憲章」を制定しました。このグローバル憲章は、「お客様への優れた価値の提供」を重視しており、お客様を第一のステークホルダーと位置付けています。

ブラザーグループは、グループ全体でこうした「お客様第一」の姿勢を貫くことで事業を成長させてきました。それによって、ブラザーグループがお客様をはじめとするさまざまなステークホルダーに与える影響も拡大し、それに伴いステークホルダーからの「要請や期待」も拡大しています。こうした中、ブラザーグループは2008年度、ステークホルダーからの要請や期待に応えていくことを、さらなる成長の推進力とし、

●中長期的な視野に立ち、“At your side.”の精神でさまざまなステークホルダーからの要請や期待に対して責任を果たすこと
●それらを経営の新たな機会として捉え行動を起こすこと

をCSR経営の2本柱として定め、グループ各社が世界各地で自律的に取り組むことでグローバルにCSRを推進していくこととしました。こうしたCSR経営によって、ブラザーグループは、中長期ビジョン「グローバルビジョン21」を達成していきます。

信頼されるブランドを目指して

ブラザーグループは、ブランドとは、「グローバルに統一感のある、明確なもの」であり、「その時の事業や経営の状況にとらわれない、強く普遍的なもの」であるべきだと考えています。こうした考えに基づいて、ブラザーグループは、“At your side.”な精神から生み出されるさまざまな価値を提供することで、お客様を第一とするすべてのステークホルダーの要請や期待に応え、「Brother」を「信頼できるブランド」として確立していきます。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

■ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制

監査役制度と執行役員制度を採用

ブラザー工業では、ガバナンスの基本として監査役制度を採用し、取締役の職務執行を監査役が監査する体制を整えています。また、社内組織としての執行役員制を導入することによって、業務執行と監督を分離し、意思決定の迅速化とガバナンスの強化を図っています。執行役員は取締役会で選任され、それぞれが管掌・担当する各部門、社内カンパニー、グループ子会社の業務執行に対し責任を負っています。

●取締役会

取締役会は取締役7名（うち社外取締役3名）で構成され、毎月の定例取締役会のほか、必要に応じ開催される臨時取締役会において、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督にあたっています。また、一部取締役は、戦略会議を通じて、部門の業務範囲に関する戦略立案および指導にあたっています。

▶役員一覧はこちらをご覧ください。
http://www.brother.co.jp/corporate/bil/index.htm#board

●監査役会

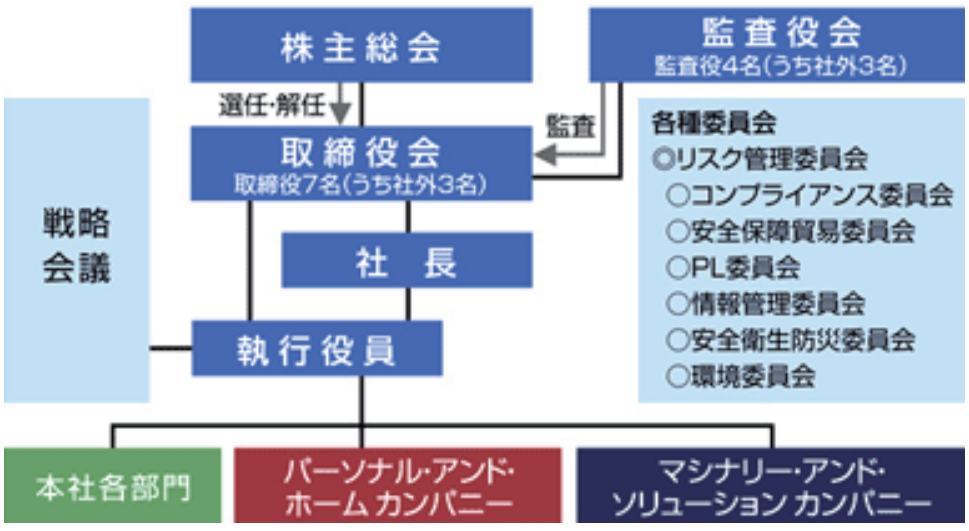
監査役会は監査役4名（うち社外監査役3名）で構成され、各監査役は、監査役会で定めた監査基準に従って、取締役会などの重要会議に出席して意見を陳述するほか、監査役スタッフ（3名）を用いて業務および財産の状況を調査するなどして、取締役の職務執行を監査しています。

▶役員一覧はこちらをご覧ください。
http://www.brother.co.jp/corporate/bil/index.htm#board

●戦略会議

戦略会議は、役付執行役員を中心として構成され、経営戦略の立案およびグループ運営にかかわる重要事項を含む業務執行について審議しています。

ブラザー工業ガバナンス体制図（2010年7月現在）



©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

リスク管理体制

ブラザーグループのリスク管理体制の整備を行うために、ブラザーグループ全体の重要なリスクを識別、評価し、適切な対応指示を行う独立した経営管理組織としてリスク管理委員会(委員長：代表取締役社長)を設け、内部統制と危機管理を含むリスク管理体制の充実を図っています。

また、リスク管理委員会を頂点に、その下部組織として以下の個別リスク委員会を設置し、それぞれの個別リスクに対応して、グループの重要なリスクを総合的にマネジメントしていく体制としています。発生時の影響が最高レベルと評価されたリスクについては「危機対応段階」と見なし、優先的に対応します。

●コンプライアンス委員会

コンプライアンス教育の実施により、法令や企業倫理順守の啓発を図るとともに、コンプライアンス相談通報窓口の設置・運営を通じて違反行為の予防・再発防止に取り組んでいます。

●安全保障貿易委員会

輸出貿易管理に関する法規制に基づいて、適切な輸出取引や技術提供の管理にあたっています。また、法改正時の重要な案件審議のための委員会開催や半期ごとの社内監査、グループ会社への指導・教育によって、ブラザーグループ全体の管理水準の維持・向上に努めています。

●PL委員会

安全な製品づくりと迅速かつ適切な製品事故対応に努めています。また、必要に応じて委員会を開催し、製品安全対応の周知徹底を図っています。

●情報管理委員会

情報漏えいリスクなどに対応するために、会社に存在する情報および顧客情報の適切な管理方針を定め、グループ内への展開をしています。

●安全衛生防災委員会

従業員の安全や健康の確保、災害の予防や災害時の被害の最小化を目的として、これらに関する年間計画の審議、各施策の策定・実施、啓発などの活動を行っています。

●環境委員会

ブラザーグループ全体で取り組まなければならない環境課題に対する施策を審議・決定しています。

■リスクマネジメント

多様なリスクを把握し、適切に対処するために

ブラザーグループでは、事業活動に伴う多様なリスクを把握し、適切に対処するために、「ブラザーグループリスク管理規程」を定め、リスク管理委員会を設置するとともに、部門・地域・グループ会社ごとにリスク責任者を任命しています。責任者は、想定されるさまざまなリスクについて影響度・発生頻度をそれぞれ5段階で評価。これを「リスクマップ」として可視化することによって経営に大きな影響を与える可能性のある重大リスクを選別し、その対応策を検討しています。こうしたPDCAサイクルに基づいた活動によって、危機意識醸成と対応力強化を図っています。

2009年度は、リスク管理委員会を2回開催し、重要リスクを見直すとともに、取締役会に各委員会の活動状況を報告しました。今後も、引き続きリスク管理体制の整備を進めていきます。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

内部統制

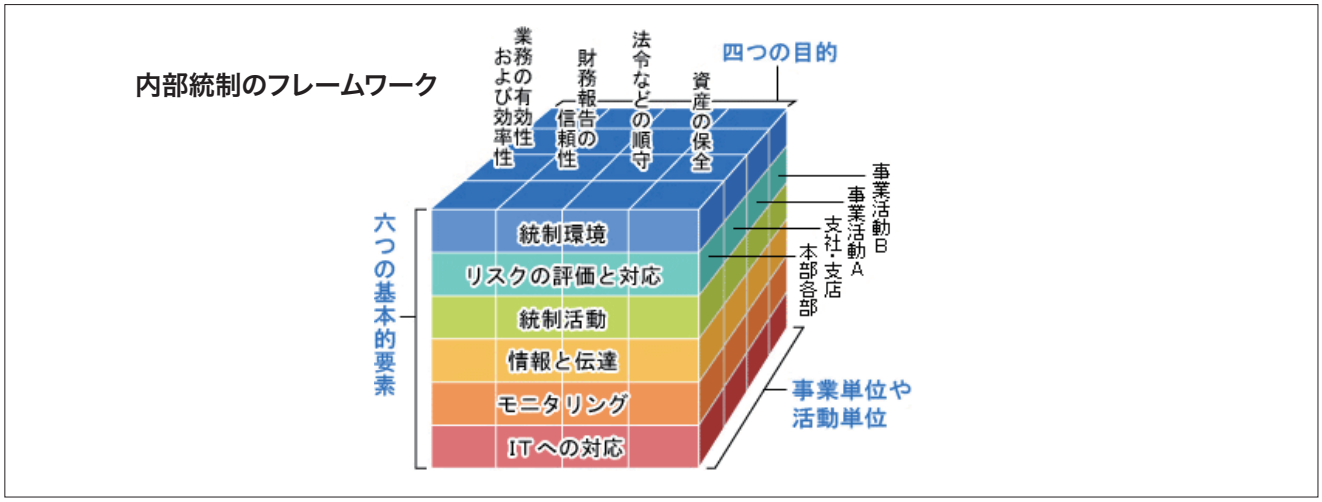
■体制の整備と継続的なレベルアップ

財務報告の透明性と信頼性を確保するために

2006年5月の新会社法施行や、2009年3月期からの内部統制報告書提出義務化など、近年、社会は企業の財務報告にいっそうの透明性・信頼性を求めています。ブラザーグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進、ひいては企業価値の向上を図る好機ととらえ、体制の整備を進めてきました。

こうした中ブラザーグループ各社は、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックリストなどで自己点検し、さらに内部監査部門が、独立的な観点からの監査を実施しました。発見された改善すべき点は期末までにすべて改善し、「当社グループの財務報告に係る内部統制は有効と判断します」とした内部統制報告書を金融庁に提出しました。また、内部統制の目的や重要性、グループの活動状況などを共有するためのホームページをイントラネットに開設したり、e-ラーニングを通じて理解を更に深めてもらうなど啓発活動を積極的に行っています。

今後も、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、社会からの要請である「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努め、多くのステークホルダーから継続して高い信頼をいただけるよう努めてまいります。



■地域統括会社と連携し内部監査を実施

内部統制のPDCAサイクル確立・向上を目指して

ブラザーグループでは、2009年度に、ブラザー工業および米州・欧州・亜州の地域統括会社が連携し、国内5社・海外12社のグループ会社を対象に内部監査を実施しました。これは、内部統制に関わるPDCAサイクルをより確かなものとし、業務のさらなる透明化・効率化、リスク対応力の強化を図るためのものです。

今回の監査では、ブラザー工業と地域統括会社の監査部門が密に連携をした結果、従来に増して現地の実態に則した監査を実施できました。また、各グループ会社でも、内部統制報告制度が2年目となることから、現場部門での内部統制への理解が進み、自発的な取り組みが進展してきました。自己点検及び内部監査で相当数の要改善事項が確認されたものの、年度内にすべての改善を完了しました。

今後は、(1)自己点検による現場部門の内部統制にかかわるPDCAサイクルの自律化　(2)改善策の組織/会社横断的な展開によるグループ全体のレベルアップ　(3)ブラザー工業・地域統括会社・グループ会社・各部門の連携・情報共有による監査の効率化などを目標に、内部統制機能の維持向上を図ります。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コンプライアンス

■コンプライアンス体制

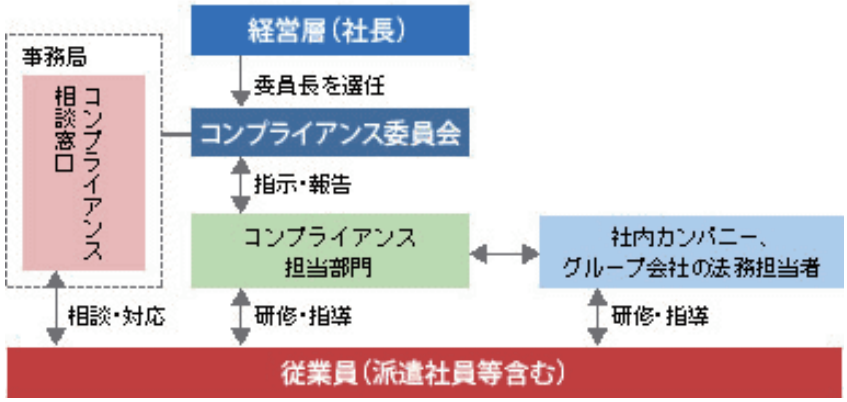
CSR経営の基盤として法令・倫理の順守を徹底

ブラザーグループは、コンプライアンス（法令・倫理の順守）がCSR経営の基盤を支え、さまざまなリスクを回避する上で不可欠なものであると考えています。グループ全体でコンプライアンスを徹底するために、「ブラザーグループ　グローバル憲章」の行動規範のひとつである「順法精神・倫理観」に基づいて従業員の行動基準を定めています。また、コンプライアンス委員会を設置し、相談通報窓口（ヘルプライン）を設けて不祥事の未然防止や早期対応、再発防止に努めています。2009年度には、海外を含むグループ各社の窓口で受け付けた相談案件がブラザー工業のコンプライアンス委員会にも通知されるようになり、グループとしてリスク対応を一元化する取り組みが進んでいます。

教育面では、グループ各社での集合研修のほか、日本語・英語・中国語でコンプライアンスのe-ラーニング教材を制作し、グループ各社の従業員が受講しています。

2009年度には、さらなる意識向上を図るため、ブラザーグループの全従業員を対象にした「コンプライアンス　ハンドブック」を作成しました。2010年度についても、グローバルな展開を視野に入れて引き続き活動を続けていきます。

コンプライアンス推進体制



■コンプライアンス ハンドブックを発行

グループ従業員の意識向上に向けて活動を強化

ブラザーグループでは、従業員のコンプライアンス・倫理意識の向上を目的に、2009年度に新たに「コンプライアンス　ハンドブック」を発行し、国内グループ会社の全従業員に配布しました。

この冊子には、「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づくコンプライアンス行動基準、具体事例集に加え、クイズ形式による学習項目に多くのページを割き、従業員が自習できるような内容になっています。

コンプライアンス ハンドブック

また、定期的に外部講師による講演会を開催しており、2009年度は、執行役員および管理職を対象に、コンプライアンス分野で高い見識を持つ弁護士を講師として実施しました。さらに、e-ラーニングについては、2009年度は2回実施し、国内グループの全従業員が受講を完了しています。

今後は、中国・ベトナムなどグループの主要生産拠点が集中するアジア地域を中心にコンプライアンス教育を強化し、企業不祥事の未然防止や倫理意識のいっそうの向上に取り組みます。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

情報セキュリティー

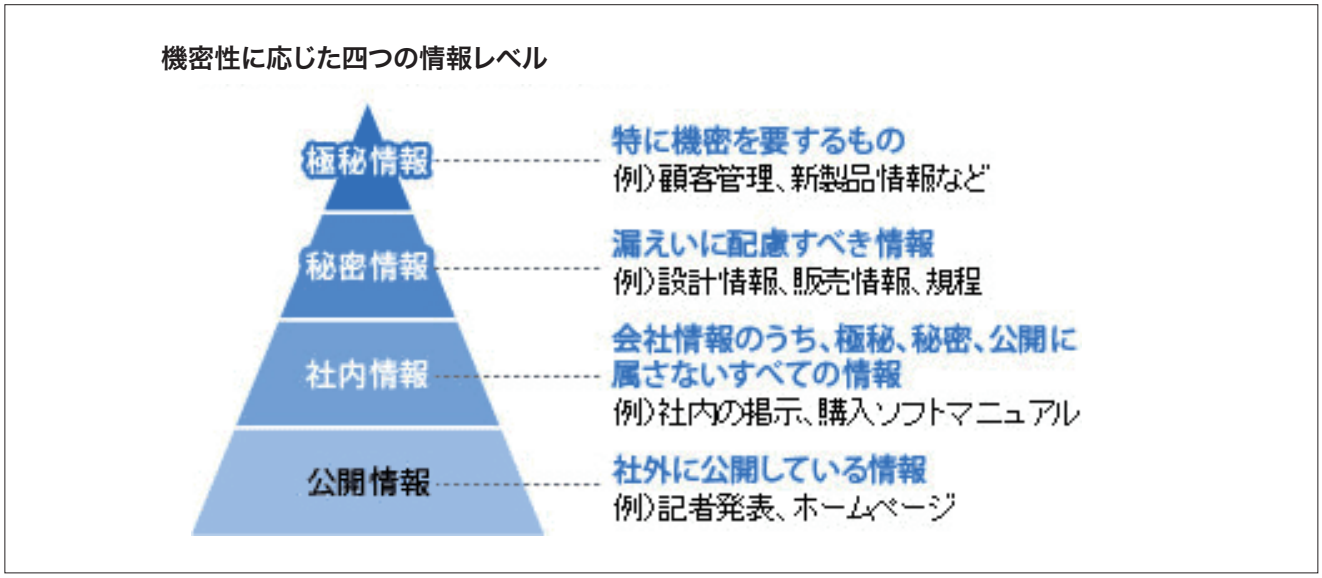
■情報を適正に管理・保護するために

情報管理規程に基づき監査・リスク評価を定期的に実施

ブラザー工業では、情報の適正な管理・保護を、経営品質維持のための基盤と位置付け、「情報管理規程」を定めるとともに、情報管理委員会を設け、情報セキュリティーマネジメントシステム（ISMS）に準拠した活動を実施しています。情報管理規程においては、社内で扱う情報の機密度を、内容に応じて4段階に区分し、情報の保管・アクセス・廃棄などのルールを定めており、各部門の情報管理担当者への情報共有などを徹底することで、ルールの実施を全社的に展開しています。加えて、年2回の内部監査での確認も行っています。

また、情報リスクアセスメント※として、全部門で抽出した情報リスクに対するリスク対応の計画をまとめた「適用宣言書」を情報管理委員会で承認し、リスク対応を推進しています。

※リスクアセスメント：情報資産に対して、脅威の頻度、脆弱性、影響の大きさなどを基にリスクを評価すること



■情報リスク対応の強化策を推進

情報システムと業務プロセスの両面で情報リスクアセスメントを実施

ブラザー工業は2008年度に情報システムを対象としてリスクアセスメントを行い、情報システム自体に存在する情報リスクに対して対策を実施してきました。しかし、各部門で情報システムを使用して業務を実施するプロセスの中にも情報セキュリティー事故につながるリスクが潜んでいるとの判断により、2009年度は業務プロセスを対象にリスクアセスメントを実施しました。具体的には、これまでに日々の業務の中で担当者自身が経験した「ヒヤリ・ハット（重大な事故に直結してもおかしくない軽微なミス）の事例」を書き出すことにより潜在的なリスクを抽出し、対策を講じました。

グループ会社については、2009年度は情報システムを対象とするリスクアセスメントを国内グループ会社11社・海外の主要グループ会社4社で実施しました。業務プロセスについても、順次展開していく計画です。

このように情報システムと業務プロセスの両面からリスクアセスメントを行うことにより、網羅的なリスク対応の体制を構築することができ、また従業員に対して情報セキュリティーへの理解を深めることができました。ブラザーグループでは、今後、実施したリスク対策の有効性評価の仕組みを整備し、PDCAサイクルの強化を図っていく方針です

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

■2009年度の課題と実績・2010年度の課題

各地域が自律的に取り組みを推進

ブラザーグループは、世界の各地域で多くの事業を展開しています。そのような中でCSR経営を推進するために、各部門や地域は、グループのすべての活動の礎である「ブラザーグループ　グローバル憲章」に基づいて、それぞれの業務の特性、地域の文化・慣習を考慮したCSR経営の課題を抽出し、自律的な取り組みを行っています。

「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項　　目
お客様	・あらゆる場面でお客様第一を考え ・グローバルな市場から求められる多様な要請や期待にすばやく応える ・定められた事業領域内で限られた経営資源を有効活用する。 ・相互協力のもと、お客様中心の事業一貫経営をグローバルに展開する	お客様第一のマーケティング・商品企画・開発設計（各事業）
		お客様第一の安全・安心な製品設計
		お客様ご迷惑率を低減させる設計品質（各事業）
		お客様ご迷惑率を低減させる製造品質（各事業）
		お客様第一の物流・販売・サービス体制（各事業）
従業員	・従業員の多様性を尊重する ・人権、多様性の尊重、信頼と尊敬	多様な人財の確保
		多様な働き方の支援
	・従業員がさまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する	各地域での人財育成
		グローバル人財育成
		労働安全衛生
	・従業員の努力と成果に対して、公平な評価と正当な報酬で応える	適切な評価制度
	・従業員に社会の模範となる行動を求める ・従業員に会社との価値観の共有を求める	グローバル憲章の共有
		従業員の「誇り度」向上
		最高度の倫理観の醸成

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項　　目
ビジネス パートナー	・常に公平・公正な取引を行う ・信頼関係に基づいて成長しあう	CSR調達の推進
		仕入先との協働
		物流パートナーとの協働
		販売先との協働
株　主	・積極的な情報公開を行い、株主との間に長期的な信頼関係を築く	IRコミュニケーション
		社会的責任投資株価指数の構成銘柄
地域社会	・地域に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担する	「事業に関連した活動」「地球環境への配慮に関連した活動」「『地域』『人づくり（従業員を含む）』を意識した活動」にテーマを絞った各地域での自律的な社会貢献活動
		グローバルに統一感を持った社会貢献活動
環　境	・持続的な発展が可能な社会の構築に向け、企業活動のあらゆる場面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行う	CO_2排出量削減の推進（地球温暖化の防止）
		消耗品・製品の回収リサイクル（循環型社会形成）
		化学物質の管理
		環境社会貢献活動の実施（できる限り生物多様性を意識した活動）
		環境コミュニケーションの実施（イベント、教育、ダイアログなど）
ガバナンス	・活動する国や地域における関連法規、規制を順守し、文化を尊重する ・最高度の倫理観を持って行動する	グローバルガバナンス体制の構築
		内部統制の推進
		コンプライアンスの推進
		情報セキュリティの推進

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

2009年度のCSR課題と実績・2010年度の課題

地　域	2009年度の課題	2009年度の実績	2010年度の課題
日　本	・お客様サービスの迅速化 ・満足度の高いお客様サポートの提供 ・お客様とのコミュニケーション強化 ・さらなる品質向上によるお客様満足の向上 ・環境に配慮した製品の開発・設計の推進 ・消耗品の回収・リサイクルの促進 ・若手従業員、グローバル人財、新事業へチャレンジする次世代人財の育成 ・ビジネスパートナーとの信頼関係の強化 ・従業員参加の地域社会貢献活動の推進	・物流事業者と連携し、修理期間の短縮 ・工業用ミシンの品質向上でお客様ご迷惑率の低減 ・お客様サポートサイト「ソリューション・センター」のレスポンス改善 ・各種環境ラベルの取得 ・再生トナーカートリッジの販売 ・海外大学生の採用と教育 ・若手従業員の営業力強化研修の実施 ・海外トレーニー制度の継続的運用 ・マレーシアとベトナムのお取引先に対してCSR調達勉強会を開催 ・日本の東海地方の若手起業家の支援を継続 ・縫製工場の人財育成を支援	・お客様満足度の向上とお客様とのコミュニケーション強化 ・トップブランドにふさわしい品質水準、ブラザー独自の顧客価値の提供 ・WEBによるお客様サポートの強化 ・グローバル人財の育成などグループの真のグローバル化の推進 ・営業系人財の育成強化と環境整備 ・ビジネスパートナーとの信頼関係の強化 ・従業員参加型の地域社会貢献活動の推進 ・環境に配慮した製品設計の推進 ・消耗品の回収・リサイクルの推進 ・環境配慮型企業としての認知度向上
南北アメリカ	・米州全体のお客様サービス体制の強化 ・自律型人財育成プログラムの強化 ・従業員参加型の継続的な地域社会貢献活動の推進 ・米州内での環境保護活動の推進	・オフショアコールセンターの拡充 ・ISO14001監査のための従業員教育 ・子供たちへの環境啓発活動	・お客様に対するサービス体制の強化 ・自律型人財育成プログラムの強化 ・従業員参加による社会貢献活動の継続的な実施 ・従業員の環境意識の向上と環境保護活動の推進（ブラザーエコポイント活動の実施）

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

各地域のCSR課題

地　域	2009年度の課題	2009年度の実績	2010年度の課題
欧　州	・CRMと「e-サービスシステム」を導入し、お客様サービス体制を強化 ・従業員参加型の継続的な地域社会貢献活動の推進 ・NPOとのパートナーシップによる環境保護活動の推進	・CRMと「e-サービスシステム」を導入し、お客様サービス体制を強化 ・若者育成プログラムを支援 ・環境NPO（クールアース）への協賛	・会社および個人による、地域社会での環境貢献活動および慈善活動の継続的な推進 ・環境NPO（クールアース）へのスポンサーシップと連携した、消耗品の回収・リサイクルの導入
アジア・オセアニア・中近東	・ワーキンググループ活動を核とした人財育成 ・消耗品の回収・リサイクルの促進 ・地域全体でのCSR経営の推進体制とそのプロセスの強化	・従業員満足度調査の実施と結果に基づいた改善活動 ・従業員参加によるマングローブの植林 ・グローバルCSR会議の開催	・亜州全体での統一したWEBサイトによるブランド力、利便性の向上 ・グローバル憲章の浸透活動を目的にした各種活動の実施並びに人財の育成 ・生物多様性社会への貢献活動の強化 ・消耗品の回収・リサイクルの促進
中　国	・ローカル人財の育成の強化 ・地域社会への経済的な支援の推進 ・従業員参加型の環境保護活動の推進 ・さらなる品質向上によるお客様満足度の向上	・内部統制実務教育を通じた従業員の成長支援 ・地元小学校に家庭用ミシンを寄贈し、ミシン教室を開催 ・エコプログラム（従業員参加の環境啓発・保全活動）の実施	・お客様に対する販売およびサービス体制の強化 ・従業員による自主活動の奨励（ブラザーエコポイント活動など） ・ブランドガバナンス活動の展開

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

CSR・ブランド戦略

■グローバルCSR・ブランド戦略会議を開催

グローバルなCSR活動のさらなる進化のために

2009年7月30日、ブラザー工業本社において「第一回グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催しました。

ブラザーは、事業活動を支えるグローバル戦略の柱の一つとして「グローバルCSR」を推進し、「Brother」をグローバルな「信頼できるブランド」として確立することを目指しています。この会議は、グループの経営層がブラザーのCSR活動の進捗を確認し、今後の計画を策定する場として設けられたものです。会議には、議長であるブラザー工業社長の小池をはじめ、ブラザー工業の執行役員、米州、欧州、亜州、中国の地域統括販売会社、ブラザー販売、エクシングの社長が出席をしました。

ブラザー工業社長小池のスピーチ

今回の会議では、まず各地域統括販売会社の社長などから各組織でのCSR活動や、ブラザーグループグローバル憲章（以下グローバル憲章）の共有活動が報告され、その後参加者全員で、「各拠点において展開されているさまざまなCSRの取り組みを、ステークホルダーから見たときに、グループ全体で統一感ある活動にしていく」「全てのグループ従業員の活動の礎であり、CSR経営のベースであるグローバル憲章の浸透度を更に高める」などの課題の解決に向け、以下の項目を中心に議論を重ねました。

グローバルCSR・ブランド戦略会議

・統一感を持った環境対応、社会貢献活動の強化
・ブランド、WEBガバナンスの強化
・グローバルWEB戦略の推進
・グローバル人財育成
・グローバル憲章のさらなる浸透
・CSR、環境活動に関する外部への情報発信の強化

具体的には、従来の社内イントラネットを利用した経営トップ層からの継続的なメッセージ発信に加え、経営トップ層によるグローバル憲章浸透に向けたコミットメントの実施とその率先垂範、ブラザーエコポイント活動※のグローバル展開、ブランドやWEBのガバナンスのためのルールの強化・調査の実施などが決定されました。

また、2010年1月29日には、「第二回グローバルCSR・ブランド戦略会議」が開催されました。ここでは第一回の会議で決定された事項の進捗の確認や2009年度の活動実績の説明が行われるとともに、ブラザーグループの環境配慮活動をグローバルにアピールする新しいWEBサイトの紹介もありました。

※ブラザーエコポイント活動：従業員やその家族がとった、環境に配慮した行動などにエコポイントを付与し、ポイントに応じてブラザーがさまざまな環境貢献活動を実施するもの

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

第三者意見

■ブラザーグループの2009年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

当意見は、ブラザーグループのCSRの取り組みに関するウェブサイトの記載内容、および同グループのCSR、環境、調達、人事・健康・安全の各担当者へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同グループのCSRへの取り組みは、環境負荷の削減や取引先への取り組みの呼びかけなど、広範な項目について、国内外でPDCA（マネジメント・サイクル）を適切に進めていると言えます。

高く評価すべき点

・温室効果ガスの排出量削減について、海外の生産・販売拠点において実勢に適した削減施策を実施・導入するなど、大幅な削減が実現したこと。今後もさらに精度の高い展開が進むことを期待します。

・顧客満足の向上について、「お客様ご迷惑率」という可視化と把握によって、不具合・故障の低減や修理期間の短縮など、さまざまな成果に結び付けていること。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

・使いやすさや環境に配慮した製品づくりについて、欧州の主要な環境ラベルの認定を取得する製品を相次いで発売していることを評価するとともに、今後は、ユニバーサル・デザイン・フォントの使用推奨や、トナーセーブや2in1印刷、自動両面印刷などを標準設定として出荷するなど、使用時の使いやすさや環境負荷削減を促す取り組みが進むことに期待します。

・人的多様性の向上と活用について、日本国内大学への外国人留学生と海外大学の卒業者を計22名新規採用し、グループトレーニー制度による海外拠点への派遣など、中長期の人材戦略に基づく取り組みが進んでいることを高く評価するとともに、今後は処遇・評価制度の統合など、グローバルな人材活用・育成を進めやすい基盤づくりが進むことに期待します。

・働き続けやすい職場づくりについて、国内のグループ会社に勤める子どもを持つ女性従業員のための「Brother Mothers'」活動の充実を評価するとともに、育児・介護・看護のための休暇・短時間勤務の利用率（ブラザー工業で1.81%）をさらに高められるよう、現場の課題の把握と解消が進むことに期待します。

・生物多様性保全への取り組みについて、世界各地で環境保全活動に協力していることを評価しつつ、今後は、印刷に不可欠な紙、ミシンがけに不可欠な布の素材を供給する生態系のリスクへの理解・共有をさらに進め、保全への取り組みを拡充することを期待します。

・サプライヤーへの働きかけとして、環境・人権・労働・安全衛生・公正取引・企業倫理・情報セキュリティー・消費者保護などを加えた「CSR調達」を、中国、ベトナム、マレーシアで相次いで開始したことを評価するとともに、今後はサプライヤーの取り組み状況の可視化を進め、事例の共有や表彰、課題解決に向けて交流する体制が整備されることを期待します。

・社会貢献活動について、従業員の日常的な環境負荷削減への取り組みによる「ブラザーエコポイント活動」に1,000人以上が参加し、すでに120万点以上（2008年度比1.7倍）に達していることや、ミシンを活用したエコバッグづくりなど自社の資源を生かした活動を高く評価するとともに、今後は世界共通の基本方針のもとで、社会への投資として戦略的に推進されることを引き続き期待します。

IHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 川北 秀人

川北秀人

IIHOE：「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。
http://blog.canpan.info/iihoe/（日本語のみ）

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

ブラザーグループは、あらゆる場面でお客様を第一に考え、
モノ創りを通して優れた価値を創造し、迅速に提供します。
そしてお客様との間に長期的な信頼関係と
ロイヤルティーを築きます。

■お客様第一の製品開発

・ラベルプリンターを さらに多用途に もっと便利に
・大量の情報を手軽に安全に携帯できる
「電子ペーパー端末」を

■お客様ご迷惑率の低減

・お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方
・工業用ミシンの品質向上でお客様満足を徹底追求
・ひとつの改善を他機種にも水平展開して
問題発生を未然防止

■安全・安心な製品設計

・お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方
・ユニバーサルデザイン実践への仕組みづくり強化

■物流・販売・サービス体制

・会話型の質問検索「ブラザーサポートナビ24」でサポート強化
・WEBサイトでのサポートを より速く分かりやすく使いやすく

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

■ラベルプリンターを さらに多用途に もっと便利に

お客様視点で情報を分析し、隠れたニーズを発見して製品に反映

文具に名前を貼る、ファイルやCDにタイトルを明記する、部品やケーブルの種類を識別する・・。テープへ手軽に印字できるブラザーのラベルプリンターは、1988年に「ピータッチ」という製品名のブランドとして発売以来、お客様の声をいつも聞きながら進化し、成長してきました。

その存在が世界に認められたきっかけは、タイプライター文化が浸透している欧米のお客様のご要望をいち早く採り入れ、文字入力にキーボード方式を採用したことです。その背景には、タイプライターやワープロに使われた技術の応用、市場の声をすばやく商品に反映する企画力がありました。

お客様視点の開発姿勢は今も変わりなく、ラベルプリンターを扱うブラザー工業の商品企画部では、お客様の購入動機・使用状況・満足度・ご要望などを定期的に調査し、性能・デザイン・価格をはじめ、ラベルプリンター活用法の紹介にも反映しています。

手軽なラベル作成ツールとして家庭から業務用まで多用途に活用されている「ピータッチ」

「インストール不要」も「高速印刷」もお客様の声から

「ピータッチ」には、パソコンにUSBケーブルでつなぎ、編集ソフトを使用して文字入力や多彩なデザインを楽しめる機種があります。

従来は、付属CDで編集ソフトをパソコンにインストールし使用する方式でしたが、お客様満足度調査で「インストール作業がめんどう」「会社のセキュリティー管理が厳しく、会社のパソコンへのインストール制限がある」といったご意見をいただきました。

インストール不要で自動的に編集画面が立ち上がる「ピータッチ2430PC」

そこで、こうした声にお応えするため、本体に編集ソフトを内蔵し、USBケーブルをつないで、編集ソフトを起動させるだけですぐに編集・印刷ができる*（WindowsOSのみ、Macintosh®は非対応のため従来通り付属CDから専用ソフトのインストールが必要）インストール不要のラベルプリンター「ピータッチ2430PC」を開発し、2009年2月から国内で発売。ご好評をいただいています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

お客様第一の製品開発

従来モデルの4倍の高速印刷を実現「ピータッチ9800PCN」

また製造業の現場で「ピータッチ」を活用し、製品名や製造番号等を表示する「銘板」や「バーコードラベル」を大量に印刷されているお客様にとっては、「ラベルの準備までに時間がかかる事や、事務所などで印字が完了したラベルを製造ラインまで持っていく作業がストレスになっている」という実態が判明しました。

そこで、これをヒントに「ピータッチ2430PC」の8倍、毎秒80ミリの高速印刷モードや複数台の「ピータッチ」で印刷できる分散印刷機能を準備した「ピータッチ9700PC」、さらにパソコンの置けない製造ラインにも設置できる、当社のラベルプリンターとしては初のネットワーク内蔵モデルにチャレンジした新商品「ピータッチ9800PCN」を2010年2月より発売。工業用に利用される業務用ラベルプリンターとして、低価格のラベルが作成でき、生産の効率化・工数削減に貢献しています。

ラベルプリンターの用途は、大変幅広いものです。それだけに、商品企画部門では常にアンテナを張り巡らせ、お客様視点で市場を調査・観察して新たな活用分野を探るとともに、製品のさらなる高機能化を図りながら、その可能性を広げています。

■大量の情報を手軽に安全に携帯できる「電子ペーパー端末」を

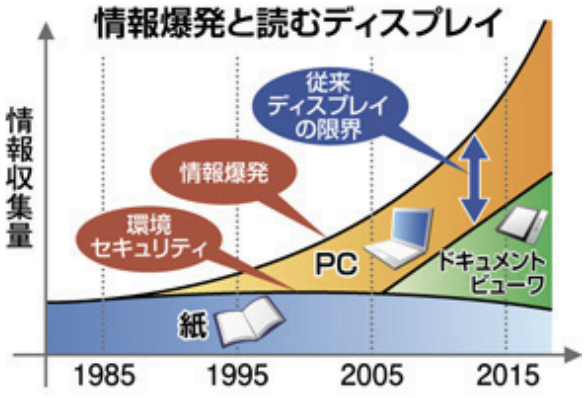
第三の閲覧ツール「ドキュメントビューワ」の開発

電子ペーパー端末「ブラザー ドキュメントビューワ」

営業のための書類やアフターサービスのためのマニュアル、さまざまな技術データなど、大量の情報を携帯し出先で活用する場合、印刷やコピーをして持ち歩くと重いうえ、紛失・盗難による情報流出のリスクも伴います。またモバイルパソコンや手のひらサイズの小型端末を使用しても表示画面が小さく、視認性に問題があります。

このような問題を解決するため、ブラザー工業のNID開発部※1は、画期的な電子端末の製品化を企画しました。

「9.7インチの大画面、重さ約600gで、A4サイズ1万枚の書類を収納でき、紙のように見やすく、紙をめくる感覚で閲覧できる“電子ペーパー端末”を開発しよう。紙・インクの削減で環境負荷を低減させ、データの暗号化で情報流出のリスクも回避できる。これは端末の販売後にコンテンツ配信でビジネスを成立させる“電子書籍”とは一線を画す、紙・パソコンに続く“第三の閲覧ツール”だ」。



※1 NID：Network&Imaging Devices(ネットワーク&イメージングデバイス)の略。
ブラザー工業の新規事業分野。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

お客様第一の製品開発

見やすい画面、切替速度、長時間使用にこだわって

A4サイズ1万枚のデータ保存能力に加え、技術陣がこだわったのは「(1)見やすい画面 (2)画面の切替速度 (3)長時間使用」という使いやすさです。そこで、画面サイズは、細かい文字や図面が見やすい9.7インチ(202.8mm×139.4mm)とし、表示方式は、新聞紙より高いコントラストで、暗い室内や直射日光に左右されない視認性と低消費電力性を備えた電気泳動方式※2を採用しました。

また電源を入れて5秒以内に起動し、画面の表示切替は1秒以下と紙のような手軽さを実現。そして、電源を気にすることなく連続で83時間(5,000ページ表示)使用できるバッテリー能力。さらに、使用者を制限できる暗証ロック機能とともに、記憶媒体であるSDカードには、ほかの端末での読み取りができない暗号化されたデータを保存しているため、SDカードを紛失した場合にも情報流出を防ぐことができます。

※2 米国EInk社の電子ペーパー表示方式。コーティングされた透明のマイクロカプセルの中に、帯電した白と黒の粒子があり、電圧をかけて粒子を移動させて、文字・図形・写真などを表示する。

約83時間使用でき、照明条件にも左右されない

文書データを更新・改訂しても印刷は不要
追加情報もスマートフォン経由で送信・拡大

紙出力に比べて「CO_2排出量は9万4,000分の1」 発売直後にメンテナンス会社が一括

2009年6月、ドキュメントビューワ「SV-100B」を発売すると、さっそく衛生陶器のメンテナンス会社が700台を一括導入しました。それまで厚いマニュアルや取扱説明書を携え行っていた製品の保守業務がこれで一変。現場での作業性が格段に効率化され、書類の更新に伴う印刷や発送のコストも大幅に削減されました。

しかも、ドキュメントビューワによるペーパーレス化により、紙出力に比べてCO_2排出量は9万4,000分の1※3に削減できます。企業や団体などでCO_2排出量の削減が大きな課題となっている中で、この数字の持つインパクトは小さくありません。

膨大な技術資料が「SV-100B」に収納され、現場作業の効率化とともに、資料印刷にかかるコスト・CO_2排出量も削減

2010年2月には、より幅広いお客様にご活用いただこうと、データ保存と閲覧に機能を絞り込み、価格を抑えた新型モデル「SV-70」が加わりました。

その後も、ドキュメントビューワの活用事例は、情報機器メーカーの保守点検業務、大学の会議資料の閲覧など着実に実績を重ねています。NID開発部では、将来のカラー画面化やブラザー製品と連動した活用法などを視野に入れ、様々なシーンでのペーパーレス化を提案していきます。

※3 当社モノクロレーザープリンター比による試算。紙の製造・使用、インクトナーやドラムなど消耗品の製造・使用、電力消費量に伴うCO_2排出量を基に算出。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

安全・安心な製品設計

■お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方

安全に使い続けていただける製品設計に向けて

世界中の国や地域でご利用いただいているブラザー製品は、その設置環境や使用方法が非常に多様です。品質保証担当部門では、市場で起きた様々な問題に関わる情報をデータベース化し、得られた情報から製品の品質基準と評価方法を作成しています。さらに、想定される問題を未然に防止するため、その対策を設計段階から織り込み、お客様に安心してお使いいただける製品づくりをしています。これが「顧客品質基準」であり、ブラザーグループの精神である“At your side.”の考え方を製品開発に反映したものです。

「顧客品質基準」は固定されたものではなく、修理依頼の情報やコールセンターに寄せられる情報などを精査して常に見直しを図っています。

■ユニバーサルデザイン実践への仕組みづくり強化

より多くのお客様に より快適にお使いいただくための配慮を

ブラザーグループでは「年齢・性別・能力などにかかわらず、より多くの人々にとって使いやすい製品、サービス、環境をつくる」というユニバーサルデザインの考え方を実現するために「使う人を中心に考えたモノ創り（ユーザーセンタードデザイン）」を推進しています。

その背景には、世界的な高齢化社会に対応したIT環境づくりや、身体的なハンディキャップのある方々への能力発揮の場の提供などに対するニーズの高まりがあります。そしてそれは、より多くのお客様が安心・快適にお使いいただける配慮の行き届いた製品を創ること、つまりあらゆる場面でお客様を第一に考える、ブラザーグループの“At your side.”の精神の実践にほかなりません。

ブラザーグループでは、「使う人を中心に考えたモノ創り」を常に意識し、企画・製品設計・評価の各段階で、米国・欧州・日本で定められている基準・規格・法律などに準拠し、かつ見やすさ・わかりやすさ・使いやすさなど様々な視点から調査・開発・検証を繰り返し、検討と改善を行います。

製品開発に関わるデザイナーは、「例えば、片手が不自由な人にも使いやすくする工夫は、健常者の片手がふさがっている時も楽に使える機能につながります。また、車椅子の方が作業しやすい製品は、誰もが座った状態のまま快適に操作できるということです。こういう発想で、特別な人のためではなくより多くの方々が快適に使える配慮を具現化していくのです」と語ります。

ユニバーサルデザインの展開事例

操作パネル部に点字を並列表記した
モノクロレーザープリンタ

座ったままで給紙・インク交換がしやすい
前面操作の複合機

高齢の方にも見やすく、判別しやすい書体の開発と採用

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

安全・安心な製品設計

「使う人中心のモノ創り」研修をブラザー工業・ブラザー販売の新入社員に拡大

研修会では高齢者擬似キットを使い製品の操作性を体験

ブラザー工業のデザイン担当部門では、これまで自部門の新入社員に「使う人を中心に考えたモノ創り」の研修を行ってきましたが、2009年度から受講対象者をブラザー工業およびブラザー販売のすべての新入社員にも広げました。

これは、製品をお使いいただけるお客様の範囲を広げることの意義や、お客様の視点に立って使いやすさ・わかりやすさに配慮した製品づくりの大切さをより深く理解し、各分野の仕事に役立ててもらおうとするものです。

2009年4月～5月の研修では、技術系・事務系の新入社員180名、2010年4月～5月の研修には外国の大学を卒業した新入社員を含む71名が参加し、ユーザーセンタードデザインやユニバーサルデザインなどの基礎知識をはじめ、使いやすさの評価体験、高齢者擬似キットを使った体験も実施し、使う人の年齢・能力・リテラシーによっていかにわかりやすさ・使いやすさに差があるかを体験しました。

高齢者疑似体験や使いやすさの評価体験をした社員は、高齢の方々にとって、文字の大きさやスイッチの位置により、想像以上に使いづらくなる場合があることや作り手と使い手の意識の違いを十分に理解する必要があることなどの気づきを得ました。

ブラザーグループでは、今後もこうした研修を充実させるとともに、より幅広いお客様にブラザー製品が快適にお使いいただけるモノ創りを進めていきます。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

お客様ご迷惑率の低減

■お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方

製品出荷後の不具合発生を限りなくゼロに近づけること

ブラザーグループでは、お客様から返品または修理のために戻ってくる製品の割合を「お客様ご迷惑率」と定義しています。これは、どんな小さな不具合でも、その修理のためにお客様にご負担いただかねばならない時間や手間は、お客様にとって「ご迷惑以外の何ものでもない」という考えによるものです。そのため、不具合発生を限りなくゼロに近づけることこそ、お客様満足向上への最優先課題と捉え、開発設計・製造・物流・販売・サービスなど各部門が一体となった品質向上活動を続けています。

■工業用ミシンの品質向上でお客様満足を徹底追求

各拠点、各部門が一体となった取り組み（中国）

工業用ミシンを扱うマシナリー・アンド・ソリューション事業（以下M&S事業）では、中国における工業用ミシンの販売拠点であるブラザー中国の主導のもと、生産拠点も一体となって品質向上活動に全力を注いでいます。活動で最も重要なのは、製品の不具合・故障発生を減らし「お客様ご迷惑率」を低減させることです。

工業用ミシン「S-7200C」

工業用ミシンで縫製に関する不具合が発生すれば、お客様である縫製工場の生産活動に大きな支障が生じます。

現在、中国の縫製産業は、輸出の減少、原材料や人件費の高騰など多くの課題に直面しています。これらを克服するには、お客様の工場におけるミシンの稼働率を上げ、生産性を高めることが重要で、ミシンの不具合・故障の発生を限りなくゼロに近づけ、お客様の業務に支障をきたさないようにすることがブラザーの最大の責務と考えています。

そのため各生産拠点では、月ごとに品質データを細かく分析し、各部門が原因と対策を共有しながら改善活動のレベルアップを図っています。例えば、通常の評価基準を上回る過酷なテストや市場モニターによる性能確認、不具合の原因追求と再発防止策の徹底、スキルアップ教育や対応ノウハウ集の作成など、いずれの取り組みにも拠点間、部門間の密接な連携プレーが生かされ、従業員一人ひとりの意識は着実に高まっています。

この結果、主要6機種の2009年12月時点の「お客様ご迷惑率」の低減は、目標を上回る結果になりました。M&S事業では、この成果をインドやバングラデシュに水平展開し、工業用ミシンの製品価値をさらに高めていく計画です。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

お客様ご迷惑率の低減

■ひとつの改善を他機種にも水平展開して問題発生を未然防止

24時間以内の改善実施を目指して

コールセンターに寄せられた製品の不具合情報や、返品された製品から製造品質に関わる課題が発見された際、その機種の改善措置はもちろん、他の機種にも速やかに改善の水平展開を図ることが品質向上・お客様満足の向上につながります。

レーザープリンターやレーザー複合機など通信・プリンティング機器の中核生産拠点であるブラザーテクノロジー(シンセン)(以下BTSL)では、問題発生時に、24時間以内に全機種を対象とする改善措置をすばやく展開できる体制づくりに力を注ぎ、同種の問題が発生しないよう努めています。

この取り組みにおける最大のテーマは、水平展開の仕組みづくりとスピードです。BTSLでは、2009年度の活動を通して、なぜ問題が発生したかを繰り返し追求する「なぜなぜ分析」や効果的な再発防止策の立案などに重点を置き、それらをマニュアル(業務手順書)に反映しています。同時に、「防止対策と他機種への水平展開を24時間以内に実施する」という目標を設定し、100%達成を目指して活動のレベルアップに努めています。

品質向上活動に終わりはなく、問題発生をゼロに近づけるのは容易ではありませんが、水平展開が浸透するにつれ、工場全体に改善・工夫する楽しさ、目に見えて成果を確認できる喜びの輪が広がっています。

ひとつの改善をただちに他機種へ展開

水平展開の状況を生産ラインで確認

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

■会話型の質問検索「ブラザーサポートナビ24」でサポート強化

待ち時間なしで「24時間365日」WEBからお問い合わせいただけます

日本の販売拠点であるブラザー販売株式会社では、2009年11月からWEBサイト上での新たなお客様サポートサービスとして、製品に関するご質問に、会話型の質問検索方式によってお答えする「ブラザーサポートナビ24※」を開設しています。

これは、お客様が質問したい内容をナビゲーターの「ゆずっち」の案内に従って入力いただくと、会話形式で回答候補をご提案し、操作方法をイラストや写真を交えて分かりやすく説明するものです。提案された回答で問題が解決しない場合は、さらにメールでのお問い合わせの画面に進みます。

「ブラザーサポートナビ24」は、お客様のご都合のよい時間にいつでもご利用できるため、コールセンターの受付時間外の対応や待ち時間の解消などに役立ち、ご利用件数は順調に増加しています。

「ブラザーサポートナビ24」の案内画面

現在、薄型インクジェット複合機「マイミーオ」、ビジネス向けプリンター・複合機「ジャスティオ」（一部の機種を除く）を対象に質問検索サービスを行っていますが、今後は対象製品を拡大するとともに、よりお客様視点に立った質問・回答づくりに努めてまいります。

※ブラザーサポートナビ24：サイトURL：https://myportal.brother.co.jp/
上記URLにアクセス後、「ブラザーサポートナビ24」のバナーをクリック

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

■WEBサイトでのサポートを より速く分かりやすく使いやすく

専門サイト「ブラザーソリューションセンター」がサポート

ブラザー工業では、世界各地で製品をご愛用いただいているお客様をサポートする専門のWEBサイト「ブラザーソリューションセンター」を設け、取り扱い説明、最新ソフトウェアのダウンロードサービス、トラブル解決法などを提供しています。2010年3月現在、19の言語、33の国と地域でサポートを展開し、より速く、分かりやすく、使いやすい情報提供を目指し、内容の充実や応答速度の継続的な改善に努めています。

日本語サイトの検索性をさらに向上

お客様が操作方法やトラブル発生などでお困りになった時、よくあるご質問（Q&A）画面ですぐに解決法が見つかれば、コールセンターにお問い合わせをいただく手間や時間が省けます。ブラザーソリューションセンターでは、この視点で日本向けサイトのよくあるご質問のご利用状況を詳しく解析し、既存項目の見直しや新たな項目の追加を行いました。

この結果、2009年度は、お客様が質問文を入力して検索した際、よくあるご質問画面に該当項目が何も表示されない確率を半分にすることができ、より確実にお客様に解決法をお届けできるようになりました。今後もこうした見直しを継続しながら、検索性のさらなる向上を図ってまいります。

よくあるご質問画面の検索性を向上

外国語サイトの応答速度を向上

お客様がお困りになった時、対処法を“すぐに”ご提供するのが、ソリューションセンターの重要な使命です。そこで、海外向けのサイトでは、2009年度に応答速度のさらなるスピード化に取り組み、システムのレベルアップを図りました。

この結果、よくあるご質問の先頭ページを表示するまでの時間、ソフトウェアや取り扱い説明のダウンロードページ時間などが、ほぼすべての国と地域で2倍以上にスピードアップ。「待ちきれずにページから離脱してしまうお客様」を4割低減でき、ダウンロード数も増加しました。

これにより、コールセンターにお電話いただく回数、画面を見ながらオペレーターとお話いただく時間も着実に短縮されています。

画面表示の応答速度を大幅にスピードアップ

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

ブラザーグループは、従業員の多様性を重視し、
さまざまな能力を発揮できる職場環境と
チャレンジングな仕事への機会を提供します。
そして努力と成果に対して、
公正な評価と正当な報酬で応えます。

■ 多様な人財の確保

・雇用・処遇に関する基本方針
・多様な人財を確保するために

■多様な働き方の支援

・多様な働き方を支援するために
・ワーキングマザーの自主的な交流・発信活動
・ボランティア表彰

■各地域での人財育成

・実務教育を通じて従業員の成長を支援

■グローバル人財育成

・グローバルな人財育成に向けて
・海外トレーニー(訓練生)制度を実施
・グローバル採用“第一期生”が入社し、新人研修スタート

■ 労働安全衛生

・グローバルな安全・防災の仕組みづくり
・身心の健康維持・増進

■ グローバル憲章の共有

・すべての活動の礎に――「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

■ 従業員の「誇り度」向上

・「ブラザーらしさ」を継承していくために

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な人財の確保

■雇用・処遇に関する基本方針

多様な人財が能力を発揮できる制度・環境を整備

ブラザーグループは、世界44の国と地域に設置した16の生産拠点と51の販売拠点で事業を展開しています（2010年6月現在）。人種・言語・文化・習慣など、事業を取り巻く環境がさまざまに異なる中で、全従業員がグローバルチームブラザーの一員として、日々活躍しています。

その基盤となるのが「ブラザーグループ グローバル憲章」（以下グローバル憲章）の「基本方針」に掲げた「従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する。そして、努力と成果に対しては、公正な評価と正当な報酬で応える」という考え方です。また、「グローバル憲章」の行動規範では「常に一人ひとりの人格、多様性を尊重し、信義と尊敬を持って行動する」ことを定めています。

ブラザーグループ各社では、これらの考え方に基づいて、採用・評価・昇進などにおいて、民族・国籍・宗教・思想・性差・学歴・年齢・障がいの有無など、あらゆる差別を排除することを目指し、また、児童労働や強制労働を禁止しています。今後も経営層と従業員が一体となって、関連法規、規則の順守はもちろん、各自の文化や慣習を尊重し、「グローバル憲章」に基づいた人事制度の進化、職場環境の継続的な改善に取り組んでいきます。

従業員の状況（2010年3月31日現在）

社 名［国］	男　女　比
ブラザー工業［日本］	男：81%　女：19%
ブラザー販売［日本］	男：83%　女：17%
ブラザーテクノロジー（シンセン）［中国］	男：16%　女：84%
ブラザーインダストリーズ（シンセン）［中国］	男：13%　女：87%
珠海ブラザーインダストリーズ［中国］	男：　6%　女：94%
ブラザーソーイングマシーン（西安）［中国］※	男：80%　女：20%
西安ブラザーインダストリーズ［中国］※	男：81%　女：19%
ブラザーインダストリーズテクノロジー（マレーシア）［マレーシア］	男：15%　女：85%
ブラザーインターナショナルコーポレーション（U.S.A.）［アメリカ］	男：55%　女：45%
ブラザーインターナショナル（ヨーロッパ）［イギリス］	男：66%　女：34%
ブラザーU.K.［イギリス］	男：58%　女：42%
ブラザー中国［中国］	男：56%　女：44%
ブラザーインターナショナル（ドイツ）［ドイツ］	男：75%　女：25%
ブラザーフランス［フランス］	男：60%　女：40%
ブラザーインダストリーズ（ベトナム）［ベトナム］	男：10%　女：90%

※ブラザーソーイングマシーン（西安）と西安ブラザーインダストリーズは、2010年6月に合併し、ブラザーマシナリー（西安）となりました。

公正な評価と処遇を目指した 目標管理制度

ブラザーグループでは、意欲・能力・成果を公平・公正に評価して処遇に反映するための体制を構築しています。例えばブラザー工業では、一般従業員については、明確な評価基準に基づく目標管理制度のもと、納得性の高い評価を実施しています。評価の結果は被評価者に公開し、その後の面談においてその評価理由を伝えています。こうすることで、従業員が自らの仕事を振り返り、新たな目標に向かって成長していくためのモチベーションも高まるため、人財育成にもつながっています。なお、上級職に関しては、年俸制を採用しています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な人財の確保

■多様な人財を確保するために

女性管理職の登用を推進

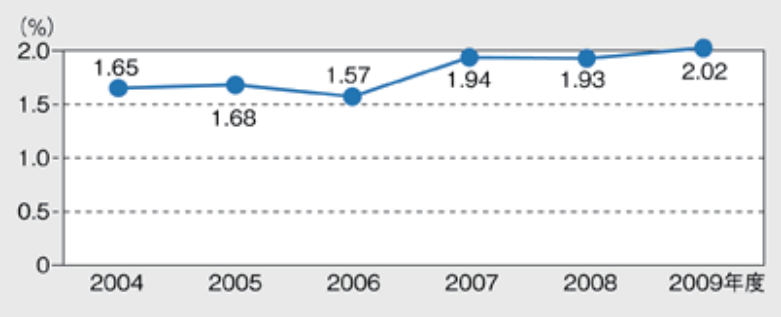
女性管理職については、各国・各地域で、女性の社会進出の歴史、生活文化、主な職種などが異なるため、全管理職者数に対する比率に差はあるものの、2009年度（2010年3月31日時点）は、中国のグループ会社などで管理職として活躍する女性が増加しました。

ブラザーグループの女性管理職者数と比率

社　名　[国]	2009年3月		2010年3月	
	数	比率	数	比率
ブラザー工業[日本]	13名	1.9%	15名	2.0%
ブラザー販売[日本]	1名	1.04%	1名	1.9%
ブラザーテクノロジー（シンセン）[中国]	11名	21.6%	14名	31.8%
ブラザーインダストリーズ（シンセン）[中国]	3名	7.7%	2名	16.7%
珠海ブラザーインダストリーズ[中国]	5名	20.8%	9名	50.0%
ブラザーソーイングマシーン（西安）コーポレーション[中国]※	2名	11.8%	5名	26.3%
西安ティピカルブラザーインダストリーズコーポレーション[中国]※	5名	26.3%	7名	20.0%
ブラザーインダストリーズテクノロジー（マレーシア）[マレーシア]	5名	13.9%	5名	13.5%
ブラザーインターナショナルコーポレーション（U.S.A.）[アメリカ]	56名	35.0%	55名	36.7%
ブラザーインターナショナル（ヨーロッパ）[イギリス]	6名	15.8%	6名	15.4%
ブラザーU.K.[イギリス]	14名	45.2%	15名	50.0%
ブラザー中国[中国]	6名	24.0%	7名	21.9%
ブラザーインターナショナル（ドイツ）[ドイツ]	1名	8.3%	1名	7.1%
ブラザーフランス[フランス]	8名	28.6%	8名	33.3%
ブラザーインダストリーズ（ベトナム）[ベトナム]	1名	4.2%	7名	16.7%

※ブラザーソーイングマシーン（西安）と西安ブラザーインダストリーズは、2010年6月に合併し、ブラザーマシナリー（西安）となりました。

女性管理職比率の推移（ブラザー工業）



©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

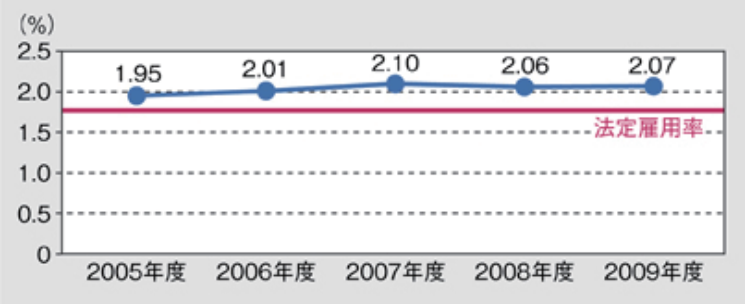
従業員とともに

多様な人財の確保

障がい者の雇用推進と活躍支援

ドイツ・フランス・日本では、一定の障がい者雇用率を企業に義務付け、例えば日本では一定規模以上の企業に総従業員数の1.8%以上の障がい者雇用が法律で定められています。また、中国では法定雇用率はないものの、障がい者雇用促進の協力金制度を設けている自治体もあります。ブラザーグループでは、各国・地域の状況に応じて障がい者の雇用を推進し、2009年度におけるブラザー工業の障がい者雇用率は、法定雇用率を上回る2.07%となっており、それぞれの障がい者が適性・能力に合った職種で活躍しています。

障がい者雇用率の推移（ブラザー工業）



2009年度は、障がいの有無に関わらず従業員がお互いの理解を深め、連携を強化して個々の能力を最大限に発揮できるよう「ジョブコーチ」による職場環境の向上に取り組みました。ジョブコーチは、障がいを持つ人が円滑に就労できるよう客観的な立場で助言・指導を行う専門家です。

ブラザー工業では、聴覚に障がいのある従業員の多くが事務部門に従事しており、円滑に意思疎通をすることが課題となっていました。そこで、愛知県障害者職業センターに協力を要請し、ある部門をモデル職場として、聴覚障がいを持つ従業員とその同僚・上司を対象に、10月～12月に5回にわたってヒアリングや手話教室の見学などを実施しました。そこでは部内会議や手話サークルの進め方、障がい特性に関する勉強会の開催などの助言もいただきました。

聴覚障がいのある従業員2名の積極的な行動や職場の上司や同僚社員の熱心なサポートの結果、この部門では作業効率の向上やコミュニケーションの円滑化が図られるなど、大きな成果が見られました。今後は、これをモデルケースに社内での「ジョブコーチ体制」を構築し、聴覚以外の障がいを持つ従業員にも対象を広げ、より多くの部門で、より働きやすい職場を作ることに力を注いでいきます。

定年退職者の再雇用と活躍支援

ブラザーグループでは、豊かな知識と経験を後輩に伝承するとともに、本人の生きがい・働きがいを支援する施策として、2006年4月に「新シニアスタッフ制度（SS制度）」を設け、定年退職者の再雇用を推進しています。

製造の急速なグローバル化に伴い、シニアスタッフならではの調整能力や後輩への育成・指導能力は、ますます貴重な戦力となり、2009年度現在、希望者のほぼ全員が再雇用され、約300名がグループ内で活躍しています。

今後は、シニアスタッフがさらに意欲と誇りを持って業務に取り組めるよう、新たな業務の創出など、活躍の場を広げる試みを進めています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な働き方の支援

■多様な働き方を支援するために

各自のライフスタイル選択を支援する制度を制定

ブラザーグループでは、従業員が多様なライフスタイルを選択できるよう、各国・各地域の法律、労働環境、従業員の状況を踏まえ、勤務体系に柔軟性を持たせるなど、個人の事情に合わせた働き方を可能な限り支援しています。

例えば、少子高齢化が問題となっている日本では、育児や介護を支援する企業内制度の充実など、家庭と仕事の両立を可能にする施策が求められています。そこで、ブラザー工業では、育児・介護休職制度や短時間勤務制度など、育児・介護と仕事の両立を可能にする制度の整備を進めてきました。

2006年9月には、制度の利用期間を拡充し、育児のための短時間勤務を小学3年生の3学期末まで、介護休職・介護のための短時間勤務を通算3年間に延長できるよう変更しました。

2008年度には、22名（1名は男性）が、2009年度は37名が育児休職制度を利用しました。さらに、「リフレッシュ休暇」の制度を設けるなど、有給休暇の取得率を高める奨励策も講じています。

■ワーキングマザーの自主的な交流・発信活動

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を目指す“Brother Mothers’”

仕事への情熱・愛着を持ちながらも、育児や家庭の両立に悩むワーキングマザーをとりまく環境整備は、社会的な課題です。こうした現状を少しでも改善しようと、国内のブラザーグループのワーキングマザー有志が集まり、2006年に“BrotherMothers’”（以下、マザーズ活動）を立ち上げました。

これは、ワーキングマザーがネットワークを形成し、各部門やグループ会社に点在する従業員が情報・課題を共有しながら、仕事・育児・家庭をバランスよく両立させる工夫やヒントを見出したり、会社に新たな制度を提案するなどして、より働きやすい風土を醸成しようというものです。

マザーズ活動では、仕事と育児を両立するための情報や体験談を発信する「Mothers’ブログ」、毎月開催する「持ち込みランチによるオフ会」などを通じて、交流や意見交換を行っているほか、各部門で企画中の子育て層を対象にした商品開発の調査などにも協力しています。

毎月開催している「持ち込みランチによるオフ会」

ブラザー工業において育児休暇取得者数が年々増加するなか、2007年度から2009年度までの育児休暇取得者職場復帰率は100%となっています。“BrotherMothers’”のような同じ立場の女性たちが本音で話し合え情報共有できる場の存在が、このような高い職場復帰率を支える活動のひとつになっていると考えます。

今後は、活動を通じて抽出された問題点やニーズの会社へのフィードバック、ワーキングマザーを取り巻く家族や上司、育児と仕事を両立している男性（ワーキングファーザー）、他社のワーキングマザーなどとの交流、さらには将来のワーキングマザーへの活動内容のアピールなどを通じて、育児をしながら働き続けること（Work-ing）の価値に対する、母親そのもの、およびその周囲の人々の理解を、高めていく方針です。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な働き方の支援

■ボランティア表彰

ボランティアに取り組む従業員を支援

ブラザーグループは「グローバル憲章」の「基本方針」の中で、地域社会への貢献について考え方を定め、事業展開する国・地域でよき企業市民となるよう、さまざまな活動に取り組んでいます。また、ブラザーグループの従業員が実践する自発的なボランティア活動を積極的に応援することで、間接的に地域社会に貢献したいと考えています。そこで、ブラザー工業は2008年4月に、全従業員を対象に「ボランティア休暇」制度を新設。ボランティア活動に参加しやすい環境を整備しました。

笑顔の「第2回ボランティア表彰」受賞者

この制度は、ボランティア組織が行う活動はもとより、趣味のサークルでの活動や個人の活動、福祉行事、募金の手伝い、施設訪問など、自発的な意思に基づいて行われる他人や社会に貢献する非営利の活動も対象としています。また、活動中の事故に対する「ボランティア活動保険」の費用を会社負担とするなど、従業員がボランティア活動に安心して参加できる支援も行っています。

さらに、2008年度にボランティア活動を通じて地域社会に貢献している従業員を表彰する「ボランティア表彰制度」を制定し、2009年5月に第1回ボランティア表彰を行いました。外部の有識者、ブラザー工業労働組合委員長、ブラザー工業の執行役員・担当部門長からなる選考委員会により、応募した従業員から、優秀賞4名、奨励賞7名、労組特別賞1チームが選ばれ、優秀賞の4名と特別賞の1チームには、今後の活動資金が贈呈されました。

表彰式では、会社を代表してブラザー工業社長の小池から賞状が渡され、これまでの活動への感謝と今後のさらなる活躍に向けた期待と励ましの言葉が贈られました。また、社内イントラネットに開設したWEBサイト「ボランティア応援WEB」に受賞者の活動を紹介し、従業員にボランティア活動の意義や楽しさを発信しました。

2009年度は、従業員が気軽に参加できるボランティア活動の機会として、ボランティア体験企画を26回実施し、合計229名の従業員が参加しました。

「ボランティア表彰制度」も、より身近な活動について広く奨励できるよう制度の改善を図り、その結果2010年3月に行った第2回ボランティア表彰では、前回に比べより多くの応募がありました。こうした取り組みを通じて、ブラザーグループの中で、社会や他者に貢献しようという気持ちを持つ従業員が少しでも増え、ボランティアの輪が広がっていくことを目指します。

「ボランティア体験企画」参加者

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

各地域での人財育成

■実務教育を通じて従業員の成長を支援

内部統制※の理解促進を実現

ブラザー中国　LTD.（以下BCN）では、会計・物流・販売などのデータを一元的に管理・分析する情報システムの教育を通じて、従業員の成長を促進しています。BCNでは、これまでこのシステムを一部専門の従業員のみが活用をしてきましたが、2009年度からは活用範囲を営業、ロジスティクス、財務などを担当する一般の従業員にも広げました。このシステムの運用に関する教育を受け、会社のルールや業務プロセス、あるいは業務上のさまざまな潜在的リスクなどを知ることで、BCNの従業員は、企業のガバナンス活動の根幹でありながら認識が難しい内部統制に対し、十分に理解を深めることができました。

社内講師と事務局スタッフ

教育の概要

期間	2009年7月～9月
回数	6回
対象者	営業部門、ロジスティクス部門、財務部門などの担当者
教育内容	会社規程・ルール、業務プロセス、業務プロセスの中で発生しうるリスク、リスクの予防・コントロール措置、情報システム操作の注意事項など
受講者数	延べ102名

意思疎通促進により業務効率が向上

今回の教育を通じて、営業担当者などにも内部統制関連文書の内容や活用方法を学んでもらい、業務に潜むリスクや業務の効率を向上させるための重要なポイントを理解してもらうことができました。また、異なる部門の担当者どうしが互いの業務に対する認識を深めあうことができたため、部門間の意思疎通の円滑化も図れ、全社の業務効率を向上させていくための基礎づくりができました。

今後も、業務上のリスクを確実にコントロールするために、また、業務効率を一層向上させていくために、業務プロセスが変更になった場合は即時にその流れを示すマニュアルも更新し、教育を実施していきます。また、社内講師を育成して、教育体制の充実を図るとともに、教育対象をさらに拡大していくことも検討していきます。

※内部統制
企業などの組織において、違法行為や不正、ミスなどが発生することなく、健全かつスムーズに企業活動が運営されるよう、業務や組織レベルで必要となる規程や手続きを定め、それらに基づいて正しく業務が行われていくよう継続的に管理・監視し、さらにそのことを保証する一連のプロセス。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル人財育成

■グローバルな人財育成に向けて

事業発展の鍵は、国内外従業員の人財育成と人財交流

業務のグローバル化が進む中で、ブラザーグループはグローバルなグループ従業員の人財育成と人財交流が事業発展の鍵を握ると考え、ブラザーDNAの継承やマネジメント能力の向上を目的とした研修、グローバルな人的交流の促進などに取り組んでいます。

取り組みの一環としてこれまでに、マネジメントを任せられる中国現地従業員育成研修を日本および中国で開催、日本の若手従業員を対象とするトレーニー（訓練生）の海外派遣など、早期に海外経験を積む制度を実施しています。

今後も、各国・各地域の人財育成のための計画やニーズなどの情報を、独自の人事情報システム「キャリアネット」を活用してグループ全体で共有し、グローバルに計画的・長期的な人財育成を進めていきます。

■海外トレーニー(訓練生)制度を実施

2009年度、P&Hカンパニーの若手従業員を欧州に派遣

家庭用ミシンを扱うブラザー工業のパーソナル・アンド・ホームカンパニー（以下P&Hカンパニー）は、欧州全域を統括する家庭用ミシン専業の新会社の設立を機に、事業のさらなる競争力向上を目指しています。

そのなかでP&Hカンパニーは、若手従業員に市場に近い場所で商品企画や営業などの実務経験を積んでもらうため、営業部の1名を、2009年6月～9月の3カ月間、ブラザーインターナショナル（ヨーロッパ）などの欧州の販売会社にトレーニーとして派遣しました。

ブラザーインターナショナル（ヨーロッパ）での研修

そこでは販売会社の協力のもと、日本での勤務だけでは十分に理解できないマーケットの実情、製品の仕様、価格に関する知識から受発注業務まで、貴重な経験を積むことができました。

P&Hカンパニーは、「グローバルに活躍する人財」「新事業にチャレンジする人財」をカンパニー内でさらに増強するため、トレーニー派遣を今後も継続的に行っていく考えです。

トレーニーから
ブラザー工業と欧州新販社の架け橋として

ブラザー工業株式会社 P&H 営業部
中島 宜人

欧州の販売会社で実務を体験することで、現地のビジネスパートナーやお客様に対する理解を一層深めることができました。このような機会を与えてくださった関係者の方々に感謝しています。今後、この経験を通じて学んだことをチーム内で共有し、一丸となって欧州でのビジネスの拡大に貢献していきたいと思います。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル人財育成

ベトナムの生産拠点から4名のトレーニーが来日

BIVINから派遣されているトレーニー

トレーニー制度の取り組みとして、2009年度は日本から海外へ3名を派遣し、海外から日本へ9名を受け入れました。

このうち、プリンターや複合機を製造するブラザーインダストリーズ(ベトナム)(以下BIVN)で、部品の製造とその品質管理業務に携わる若手従業員4名が、2009年10月に来日しました。

4名のトレーニーは、日本語学校で会話能力を高めると共に、アジア各国から来日した学生たちとの交流、日本語による手書き書類の作成、社内イベントへの参加などのほか、ブラザー工業の受け入れ担当者の家族と外出するなど、日本の社会に積極的に溶け込む努力を重ねてきました。その結果、日本語能力は大きく向上し、日本人社員との交流も深まりました。また日本語学習と並行し、CSR活動やグローバル憲章、安全衛生等に関する社内研修も受講し2010年3月には、半年間の研修報告を行いました。

また、2010年4月からはBIVNでの実務に関連する実習が行われおり、9月末まで継続していく予定です。今後も4名のトレーニーには、それぞれの専門性に関連する技術や知識を磨き、それらを現地での実践活動に結び付けていくことが期待されます。

ブラザーグループでは、トレーニーの受け入れ体制強化、研修・教育体系の拡充を図りながら、これからもグローバル人財の育成を加速していきます。

■グローバル採用“第一期生”が入社し、新人研修スタート

モノ創り拠点のキーパーソン目指して

中国・ベトナムの大学・大学院を卒業した新入社員

2009年10月、ブラザー工業に初めて、外国の大学を卒業した新入社員8名(中国7名・ベトナム1名)が入社しました。

ブラザーグループは、アジアを中心に8の国と地域に生産拠点があり、日本以外の生産比率は約9割に達します。「日本のブランドの製品に子どもの頃から憧れていた」と語る彼らには、今後、モノ創り拠点のキーパーソンとして活躍が期待されています。

入社式では、社長の小池が自身の米国経験をもとに、母国を離れて勤務する彼らに心構えと激励のメッセージを贈り、人事部門の責任者は日本語・英語・中国語・ベトナム語で祝辞を述べました。8名は、その後の半年間、語学学校で日本語の習得や文化・慣習の理解に励みつつ、ブラザー工業で社員としての基礎研修(ビジネスマナー・知的財産・CSR活動・グローバル憲章・ブラザーの歴史やDNAなど)を受講しました。この間、経営層との直接対話やプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を磨き、2010年3月には、開発部門へと配属されました。

ブラザー工業では、研修を通じて海外からの新入社員8名とのコミュニケーションを重ねながら、研修体系・生活サポート・異文化交流などのノウハウをさらにレベルアップし、グローバル人財の育成プログラムを強化・充実していく方針です。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

労働安全衛生

■グローバルな安全・防災の仕組みづくり

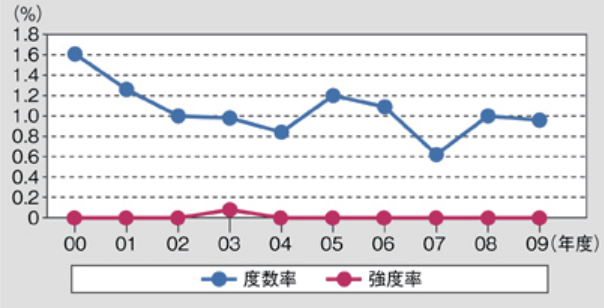
安全第一を基本方針としてマネジメントシステムを構築

ブブラザーグループは「安全防災方針」の中で、「『安全第一』は、すべての活動の基本である。すべての社員が安全に安心して健康に働ける快適職場となるように努めるとともに、安全文化を定着させる」という「安全防災の基本方針」を定め、ブラザー工業の中央安全防災委員会を中心に工場や職場の労働災害の撲滅に取り組んでいます。

2005年度からは労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の導入を開始。2006年度にはブラザー工業の星崎工場が名古屋市で初めて中央労働災害防止協会からOSHMSの認定を取得しており、その適格認定基準に沿った活動を国内の生産拠点やグループ会社に展開しています。

グローバル安全防災大会

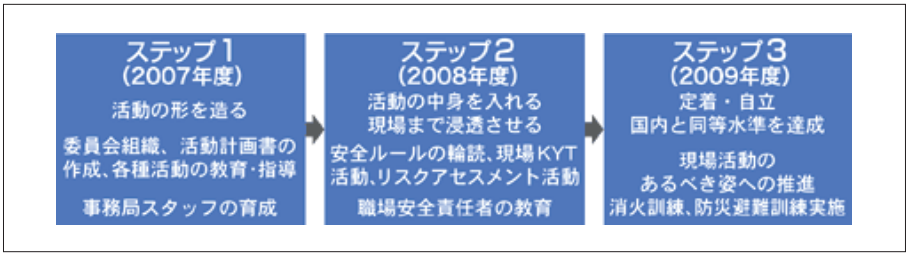
労働災害度数率・強度率推移（ブラザー工業）



度数率 ＝ 業務上労働災害発生件数（休業災害+不休災害）/ 延べ労働時間数
強度率 ＝ 業務上労働災害 休業 延べ日数 / 延べ労働時間数

国内と同水準を目指す海外の生産拠点

2007年度からは、グループ全体の安全衛生・防災水準の向上に向けて、3年間で海外の生産拠点の安全衛生・防災水準を国内と同水準にするという計画を設定し、まずアジアの生産拠点の支援を開始しました。この支援計画では、中央安全防災委員会事務局であるブラザー工業人事部安全防災環境グループが各生産拠点と協力して、次の3段階でレベルアップを推進しました。



ステップごとに組織（推進体制）、計画、教育/啓発、PDCAの展開、安全改善活動、内部監査、諸活動の実績などを総合的に評価し、推進を図りました。計画の初年度となる2007年度には、まず「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）」の基本的な活動の定着の他、委員会の設置、活動計画書の作成、事務局スタッフの育成に取り組みました。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

労働安全衛生

2008年度には、海外の各生産拠点で全従業員に安全ルール集を配布して、毎週朝礼時に全員で唱和、KYT（危険予知訓練）活動、職場の潜在的リスクを計画的に低減するための「リスクアセスメント活動」を推進しました。さらに、海外の事務局向けのWEBサイト「海外工場安全衛生防災サイト」を立ち上げ、教育資料や災害情報の掲載を開始し、情報交換と相互啓発の仕組みを整えました。

また、欧米の生産拠点への活動の展開も2008年度から開始しています。

2009年度はアジア支援計画の最終年度にあたり、定着と自立を目標に現場活動のあるべき姿への推進を行い、2009年度末において3年間の目標であった国内とほぼ同水準を達成できました。また、欧米の生産拠点においての活動も2年目になり、職場パトロールやKYT活動などが実施されています。またブラザーインダストリーズ(U.K.)においては国際的な労働安全衛生評価規格であるOHSAS18001の認証活動が行われるなど、労働安全衛生に対する意識や水準が向上しています。

こうした活動の中、2008年度から毎年、ブラザー工業の瑞穂工場に海外生産拠点の安全衛生関係者が集まり、「グローバル安全防災大会」を開催し、優秀拠点の安全表彰や活動報告会を実施しています。

2008年中国シンセン市労働災害予防先進企業表彰を受賞

ブラザーグループの中国生産拠点ブラザーテクノロジー(シンセン)（以下BTSL）では、上記の諸活動を積極的に展開し、さらに労働災害を防止するため「安全知識競技会」を開催して安全活動を奨励しています。各部門ではKYT活動を毎月実施しており、2008年6月以降のこの活動への従業員参加率は、70%を超えています。加えて、安全委員による毎月の安全巡回を通じて、2008年度は1900件、2009年度も1300件の潜在的な安全上の問題を指摘し、改善策を講じて事故の発生を回避しました。こうした活動の結果、年々、労働災害件数は減っています。

受賞代表者と安全事務局

このような取り組みが高く評価され、BTSLは2009年7月30日に開催された「2008年シンセン市労働災害予防先進企業表彰大会」において、最高位の特等賞を受賞しました。また、同じく中国の生産拠点であるブラザーインダストリーズ(シンセン)も表彰を受けました。これらの表彰により、ブラザーグループの安全防災活動は現地でも広く紹介されました。

ブラザーグループは、この受賞を誇りに思い、さらなる安全意識の向上を目指していきます。

■心身の健康維持・増進

グループ全体の健康維持・増進を目指して

従業員の健康管理は、活力ある組織づくりにおいて重要なテーマです。ブラザーグループでは、各国、各地域の事業所において産業医を配置もしくは医療機関と提携して、従業員の健康維持・増進に取り組んでいます。

メンタルヘルスの予防・早期発見・疾患後ケアの仕組みづくりに注力

ブラザー工業では、健康管理センターを中核として、毎年、健康診断や診断後のフォローを実施しています。メンタルヘルスについては、2007年度から一般従業員を対象に、自分自身のストレスに気付き対処するための「セルフケア研修」を開始し、2009年度には約700名が受講しました。また2008年度からはマネージャー層を対象に、部下の心の健康状態の変化に気付くための「ラインケア研修」も開始し、2009年度には約200名が受講しました。2010年度からは、国内グループ会社の従業員も対象にし、メンタルヘルス講習を定期的に実施する予定です。さらに年1回、ブラザー工業人事部が従業員の自己申告に基づいてメンタルヘルスをチェックし、カウンセリングを促す制度も整備するなど、予防と疾患の早期発見に力を入れています。

また、疾患後も十分なケアができるよう、産業医、保健師の増員や、復職のための支援活動など、対応力強化に努めています。

その他、海外出向者への健康面談、新入社員、新任管理職へのメンタルヘルス講習などに取り組んでいます。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル憲章の共有

■すべての活動の礎に――「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

全従業員で共有するために積極的な浸透活動を展開

「ブラザーグループ　グローバル憲章」（以下グローバル憲章）は、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する基本方針と行動規範を定めたものです。グループ全従業員の活動の礎として共有されていることを目指し、継続的な浸透活動に取り組んでいます。

2008年4月に改訂したグローバル憲章を全従業員で共有していくための環境づくりとして、携帯用のポケット版グローバル憲章（26言語）とポスターを各拠点に配布しました。また、イントラネットで改訂の主旨や内容の説明、経営層の思いなどを繰り返し発信するとともに、どのようなケースで自らの「行動」につなげるかを具体的に考えることができるように、各組織での実践状況や他社事例、更には、独自のケーススタディー集を共有しています。

ポケット版グローバル憲章とポスター

また2008年度から取り組んでいる研修は、2009年度もグループ各社で経営層・管理職などを対象に積極的に実施され、2年間で延べ6,000名が「グローバル憲章に基づく意思決定と判断」「自分たちの業務とグローバル憲章の関係」などについて、理解を深めました。研修後には、受講者がグローバル憲章に基づいた行動を約束しました。特に2009年度には、前年の実績と共に、2009年度の計画をイントラネットに掲載するなど、積極的なグループ内共有を図りました。

社長、執行役員全員参加の対話「グローバル憲章の徹底のためには」（日本）

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル憲章の共有

アメリカ、イギリス、スロバキア、マレーシア、ベトナム、中国の製造系幹部社員の研修（2009年11月）

また、2009年度は、グローバル憲章の共有度調査を実施し、グローバルに50の拠点が調査に参画、約5,000名からの回答がありました。

グループ全体の調査結果として、グローバル憲章を、管理職層の90%が行動につなげ、86%が「理解をしている」といったデータが出ており、グローバルでの共有が着実に進んでいると考えています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上

■「ブラザーらしさ」を継承していくために

「チームブラザープロジェクト」

「若年層従業員が急増する中で『ブラザーらしさ』をどう継承していくか」「従業員満足度を向上させ、誇りを持って働ける環境を維持するにはどうすればよいのか」、これらの課題に取り組むために、ブラザー工業は2008年度、「チームブラザープロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトの前身は、旧プリンティング&ソリューションズ(P&S)カンパニーが取り組んでいた「元気プロジェクト」でした。「元気プロジェクト」では、他部署との交流会や職場見学会などを実施し、従業員満足度を2年連続で向上させていました。これを全社的に発展させたのが「チームブラザープロジェクト」です。

「チームブラザープロジェクト」勉強会

「誇り」を感じられる会社を目指して

プロジェクトの最終目標は、従業員の「誇り度」の向上です。「会社にやってもらう」のではなく、ブラザー工業の全従業員が自律的に活動するプロジェクトにすることで、従業員の力でブラザーを「明るく楽しく元気な会社」にしていく。そしてそのこと自体に誇りを感じてもらうことを目指しています。

全部門の新入社員から管理職まで、幅広い層から集まった「チームブラザープロジェクト」のメンバーは、総勢300人以上。毎月、メンバーが自由に参加できる月例会を開催しています。そこでは、ブラザー工業従業員を対象として半年ごとに実施する従業員意識調査の結果の分析、「グローバル憲章」「メンタルヘルス」「ブランド戦略」「社会心理学」「ファシリテーション」などをテーマにした勉強会などを実施しています。さらに各部門では、新人歓迎イベントや他部署との交流会、部門紹介WEBサイトの作成、事業所近隣の清掃などを自律的に実施。また、これらの活動事例を全社で共有するための活動事例発表会も開催しています。こうした取り組みの結果、従業員満足度の向上において、前身であった「元気プロジェクト」の活動以上の成果を上げることができました。

今後もこれらの活動を進めるとともに、若年層従業員が自分たちの発想でどんどん活動を広げていける場にするために、若手を積極的に巻き込み、活動を拡大していきたいと考えています。また、将来的には、この活動を「グローバルチームブラザープロジェクト」として、海外拠点にも展開していきたいと考えています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

ブラザーグループは、お客様に優れた価値を迅速に
提供するために、お取引先と常に公平・公正な取引を行い、
相互信頼関係を築いて成長しあうことを目指します。

■ CSR調達の推進

・お取引先とともにCSR調達を推進
・調達方針、CSR調達基準
・お取引先から

■ 仕入先との協働

・独自の品質・コスト・納期管理体制をグローバルに展開

■物流パートナーとの協働

・物流事業者と連携して修理期間を大幅短縮

■販売先との協働

・ドイツでビジネスパートナーとの関係を強化

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

■お取引先とともにCSR調達を推進

「調達方針」と「CSR調達基準」を公開

ブラザーグループは、部品・材料を調達するお取引先の皆様にCSR調達の考え方を共有していただくために、2008年5月、WEBサイトで「調達方針」と「CSR調達基準」を公開しました。これは、2001年度から取り組んでいる、環境に配慮した部品、材料を優先的に購入する「グリーン調達」を、さらに人権・労働、安全衛生、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティー、社会貢献などの分野に広げたものです。また、ブラザーグループではCSR調達説明会とCSR勉強会を開催して、お取引先のCSR活動推進を支援しています。

2009年度、マレーシアとベトナムで、お取引先に対してCSR勉強会を開催

CSR調達推進の一環として、2008年11月、ブラザーインダストリーズテクノロジー（マレーシア）とブラザーインダストリーズ（ベトナム）において、お取引先を対象とするCSR調達説明会を開催しました。また、2009年1月には、この時実施したアンケートの回答をもとに一部のお取引先を訪問し、法令が順守されていることを確認しています。さらにCSRへの理解をより深めていただくために、2009年9月には、説明会に続いてCSR勉強会も開催。これは中国の深圳、珠海地区に続くもので、両社の主要お取引先の中から、約30名の方に参加いただきました。

今回のCSR勉強会では、CSRにかかわる調達基準を提示してその順守を要請し、お取引先にもCSR活動を実行していただくことを目的として開催しました。まずブラザーのCSR活動、CSR調達基準などを説明した後、CSRにかかわる各社の課題について討議しました。参加者からは「CSRは、企業が事業活動を継続していく上で欠かせないものである」という意見が寄せられ、CSR活動の重要性を認識していただけたようです。最後に、CSRアンケートとCSR活動報告書の提出を要請して勉強会を終了しました。

今回のCSR勉強会は、まだまだ一部のお取引先が対象であり、広くその他のお取引先にもこの活動を広げていく必要があります。今後は、各お取引先の公開許可を頂いたCSR活動事例を他のお取引先に紹介し、課題解決に役立てていただくことも考えています。

マレーシアで開催したCSR勉強会

ベトナムで開催したCSR勉強会

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

調達方針

・すべてのお取引先に対して、公平・公正な取引を行います。
・活動する国や地域における関連法規、規則を順守し、お取引先と相互信頼関係を築いて、成長し合うことを目指します。
・地球環境に配慮したグリーン調達を推進し、製品のライフサイクルを通じた環境への負荷を低減します。
・あらゆる場面でお客様を第一に考え、優れた品質と適正なコストの追求に努めます。

CSR調達基準（お取引先へのお願い）

・・すべての人の基本的人権を尊重し、不当な労働の強制、児童就労などは行わないでください。
・従業員の安全と健康を確保し、安全で働きやすい職場環境づくりに取り組んでください。
・地球環境への配慮に前向きに取り組んでください。
・関連法規、規則を順守し、公平・公正で最高度の倫理感を持った取引を行ってください。
・お客様に安全かつ優れた品質の製品をお届けするための仕組みづくりに、取り組んでください。
・情報管理体制を構築し、個人情報、機密情報を、適切に管理してください。
・地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、
よき企業市民となるよう努力してください。

▶英語版 調達の方針・基準
http://www.brother.com/en/csr/partner/purchase/index.htm

▶中国語版 調達の方針・基準
http://www.brother.com/cn/csr/partner/purchase/index.htm

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

お取引先から

全員参加で

鵬映塑料(深圳)有限公司
安念 永恭 様

黒田化学グループでは、グループ全体でCSR活動に取り組んでいます。職制を通じて活動する他、小集団サークル活動や委員会活動の中で徹底を図っています。仕入先へはCSR活動規範を配布し理解を深めてもらっています。ここ鵬映では取り組み始めて2年余りになりますが、少しずつ活動が定着してきました。社員や地域社会にも環境の重要性を理解してもらうため、社員が交代で地域の清掃をするという活動も行っています。

理念をもって

吉城企業香港有限公司／吉華光学製品廠
渡辺 定一 様

吉城グループは、「社会秩序を乱す行動や社会から非難される行動をしない」という理念をもって、CSR活動に取り組んでおります。

法令遵守の職場環境づくりはもちろん、光学ミラー生産工程内にて、「Reduce」「Reuse」「Refine」「Recycle」「Reconvert of Energy」の5R活動を展開しております。

この活動をすることにより、社員全員参加での地球環境へ配慮した、また、お客様に満足いただけるものづくりに努めたいと考えております。

最高の境地と最上の目標

寧波瑞銘機械有限公司
庄夫良(ジュアン フーリャン) 様

CSR活動は企業に対して社員、環境と社会を含めたより多くの責任を求めています。それは企業が追求する最高の境地と最上の目標でもあります。企業はCSRという責任目標を目指して経営を行うことこそ、持続的な成長と発展という健全な姿を維持する鍵であります。この度、光栄にもブラザーグループのCSR経営理念活動に参加させて頂いています。それによって、弊社は自身の成長と発展を促進することが出来ました。今後、弊社は社員を率いて多岐にわたってCSR活動に取り込み、社員を「心境向上、調和共創」に導き、企業及び社会の調和がとれるよう貢献していきたいと考えています。

調達基準遵守

DUC VIET MANUFACTURING
AND TRADE JOINT STOCK COMPANY
トラン ゴック リン 様

ブラザーグループの取引先となって以来、弊社はCSR活動の重要さと我々の責任について的確に認識しております。私たちの企業活動の方向性は、地球環境保全および企業の永続的発展の実現と結びついています。お客様には優れた製品とサービスをお届けすることをお約束しております。CSR調達基準の遵守に最善をつくしており、すべての顧客と従業員の満足度の達成を期待しております。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

過去の掲載

すべての活動をお客様のために

技研新陽有限公司
塚本 年治様

技研成就品質、新阳伴您成功
お蔭様で弊社も2009年6月に15周年を恙無く迎えさせて頂きました。近年世界経済は大きく変化をしておりますが、弊社の企業観念であります“すべての活動をお客様のために”を全社一丸となり、品質第一で取り組んでおります。又、環境保護や遵法など、CSR経営にも傾注しております。
一方、人を大切にする弊社独自の企業文化でもあります“企業活動を通じて、立派な人間を作る”の実現を目指し、TCC（Teams Culture Circle）やQCC（Quality Control Circle）等、様々な活動も継続実施致します。
今後もブラザー様のご支援を頂戴しながらCSR経営を更に進化させる様取り組んで参りたいと決意致しております。

CSR調達基準を念頭に行動

日精テクノロジーベトナム
神保 敏雄様

CSR調達基準は弊社が目指す企業文化の礎です。
社内ではCSR調達基準のベトナム語版を作成し各部署に掲示。CSR調達基準を念頭に行動するよう心がけております。
今後社員には会社の目指す行動理念を理解頂き、仕事や職場に対して誇りを持てるように、社内への浸透定着を図っていきます。
全従業員と共に、お客様に満足して頂ける物づくりと安心を与える活動に取り組んで行きます。

個性と主体性を尊重したスキルアップ

TSB INDUSTRIES (M) SDN. BHD
田中 晃様

弊社はCSR活動とし従業員の生活向上を上げるために、安全で快適な職場環境の実現および従業員との良好なコミュニケーションの維持に努力し、個性と主体性を尊重したスキルアップを全ての従業員に対し実施します。一人一人のモチベーションをあげ、お客様へ信頼のおける最高品質な製品とサービスを提供する事に日々努力しております。

最高品質の製品とサービスを提供

中山港淵工業有限公司
陳良育(チェン リャン ユ)様

ブラザーグループがCSR・グローバル憲章を全面的に提唱していることによって、弊社は「お客様を第一に」から「企業ブランドのグローバル化」までの重要性を理解することが出来ました。ブラザーグループの取引先の一員として、弊社は「安いコスト・高い品質・高い効率・納期の遵守」を推進すると共に、「グリーン調達・企業責任」を広げていく努力をしています。我々は一貫した信念を堅持し、永続経営を目指して、ブラザーグループに最高品質の製品とサービスをこれからも提供していきたいと思います。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

仕入先との協働

■独自の品質・コスト・納期管理体制をグローバルに展開

「ニューブラザープロダクションシステム」活動

「ニューブラザープロダクションシステム(以下New BPS)」活動とは、ブラザー工業の星崎工場から始まった、品質・コスト・納期の管理体制を組織的に改善していく活動です。製造工程の診断→目標の設定→改善手法の教育→課題の発見→改善の考案→実施→標準化→情報の共有というサイクルを確立し、資材調達から加工・組立・出荷に至るすべての工程でムダ・ムリ・ムラを徹底的に排除していきます。

ブラザーグループではこの仕組みを、「ブラザーグループ　グローバル憲章」にもある「モノ創りを通じて優れた価値を創造し、迅速に提供する」という考え方の重要な要素と位置付け、海外拠点への展開を進めています。

ブラザーインダストリーズ(ベトナム)での
New BPS活動推進のための会議

New BPS活動をビジネスパートナーとともに物流面で推進

ベトナムのブラザーインダストリーズ(ベトナム)(以下BIVN)で、お取引先と協力してNew BPS 活動を進めました。特に納入部品点数・数量ともにBIVN最大のお取引先とは、物流面で以下のような活動に取り組み、双方で、管理工数低減、荷姿箱数削減、在庫削減、倉庫面積削減、キャッシュフロー向上を達成しました。

●部品納入箱の大きさ・材質の変更

部品を納入する箱の大きさを統一することで、お取引先の管理工数を削減。また、箱の素材を段ボールからプラスチックに変更することで耐久性を向上し、部品納入箱を直接製造ラインに供給することができるようになり、詰め替え工数が削減され、段ボールのほこりによる不良もなくなりました。

●納入箱1箱あたりの部品収容率向上

部品納入箱1箱当たりの部品収容率を向上させることで、双方で納入箱数の減少によるコスト削減と、倉庫使用面積の削減に成功しました。

●納入時間の指定

部品の納品時間を細かく指定して1日複数回納入していただくことで、納品や空箱返却が円滑になり、在庫削減と倉庫面積縮小を実現しました。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

物流パートナーとの協働

■物流事業者と連携して修理期間を大幅短縮

引取りからお届けまで「最短3日」を目指して

三重ブラザーに到着した修理を要する製品

プリンターやファクスなど情報通信機器の修理に関し、日本ではこれまで製品をお預かりして修理を行い再びお客様のお手元にお届けするのに必要な期間を、「約7日」とご案内していました。しかし、お客様にさらなるご満足を提供するためには修理のスピードアップが不可欠であり、集中修理センターの「三重ブラザー精機株式会社(以下三重ブラザー)」と物流事業者「ヤマトマルチメンテナンスソリューションズ株式会社(以下YMM)」が連携して、修理期間の大幅短縮に取り組みました。

具体的には、お客様から製品をお預かりしてから3日間でお客様にお返しすることを目指しました。そのために、お預かりした製品の種類や同梱されている付属品などの確認・記録、および修理終了後の製品の再梱包・同梱品の確認などの作業はYMMに委託し、三重ブラザーが修理作業のみに専念できる体制を整えました。その結果、その日の朝、三重ブラザーに届いた製品を当日中に修理してYMMへ返送できる割合を大幅に高めることができ、2009年4月では約16%だったものが、11月前半には約73%に達しました。しかしこれでもまだ十分ではないため、この割合を80%以上とし、さらに多くのお客様に3日間で製品を返送できるよう、さらなるスピードアップを図る活動を続けています。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

販売先との協働

■ドイツでビジネスパートナーとの関係を強化

BIGがイングラム・マイクロ(ドイツ)社よりベンダー賞を受賞

ブラザーインターナショナル(ドイツ)(以下BIG)は、2010年1月ドイツの大手IT関連機器流通業社イングラム・マイクロ・ディストリビューション(ドイツ)(以下イングラム・マイクロ(ドイツ)社)より、その素晴らしい協力体制を高く評価され、ベンダー賞を受賞しました。

今回の受賞は、イングラム・マイクロ(ドイツ)社でのブラザー製品の売り上げが拡大したことと、同社と共同展開したマーケティングプログラムの成功などが高く評価されたものです。

受賞の喜びを分かち合う関係者

BIGのセールスマネージャーであるアンドレ シュトゥツマンは、「どのような時であっても、賞をいただくことはとても素晴らしいことです。しかし、2009年は経済危機、景気後退、受注の減少、労働時間のカット、倒産企業の増加など厳しい環境でありながら、こうした賞をいただくということは、大変特別なことだと思います。」と受賞についてを、喜びと共に述べました。

また、イングラム・マイクロ(ドイツ)社を代表してパトリック コーラー氏はブラザーに感謝の意を表すとともに、次のように述べました。「1992年以来、私どもはブラザーと素晴らしい提携関係を築き、2009年も変わらず良い関係を続けることができました。今後もこれまで以上にエキサイティングで素晴らしい関係が続くことを期待しています。」

イングラム・マイクロ社は、アメリカに本社を置き150カ国に展開している世界最大手のIT関連機器流通業者で、全米企業を対象としたフォーチュン500のリストにも挙げられるような優良企業。イングラム・マイクロ(ドイツ)社は、そのドイツ子会社です。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

株主とともに

ブラザーグループは、株主からもたらされた資本を活かし、
継続して企業価値を高めるとともに、積極的な情報公開を行い、
株主との間に長期的な信頼関係を築きます。

■IRコミュニケーション

・株主・投資家とのコミュニケーション

■外部からの評価

・社会的責任投資株価指数

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

株主とともに

IRコミュニケーション

■株主・投資家とのコミュニケーション

積極的な情報開示

ブラザーグループは、株主・投資家の皆さまへの情報提供の機会を増やし、最新の情報を分かりやすくお伝えすることによって、企業の透明性向上に努め、長期的な信頼関係を結べるよう努めています。

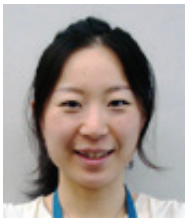
機関投資家・証券アナリストの皆さまに対しては、社長自らが説明を行う決算説明会を年2回開催しているほか、積極的な個別訪問や取材対応を行っています。また、個人投資家の皆さまに対しては、各地の証券会社支店で会社説明会を積極的に行っており、2009年度は、全国12箇所で、会社の情報をお伝えしました。

今後も、より多くの株主・投資家の方とコミュニケーションを取れる機会を作り、積極的な情報開示を行っていきます。

2010年6月23日(水)に、「第118回定時株主総会」を名古屋東急ホテル(愛知県名古屋市)において開催し、420名の株主の皆さまにご出席いただきました。本総会で、2009年度のブラザーグループの事業状況の報告や2010年度の業績見通しに関する説明を行い、議案審議では、多くの株主の皆さまからご賛同を得て、原案通り承認可決されました。また、総会終了後に、株主の皆さまが当社経営陣と直接対話することができる「株主懇談会」を開催しました。懇談会会場内には、展示ブースを設け、プリンティング機器のほか、家庭用ミシンや、2010年度に事業化を目指す「網膜走査ディスプレー」などの自社製品を展示し、使用シーンを見ていただいたり、実際に製品を使用していただいたりする中で、経営陣とコミュニケーションをとり、よりブラザーグループを理解していただくことができました。

第118回定時株主総会

株主総会終了後に行われた「株主懇談会」



担当者から

ブラザーをより理解していただくために

ブラザー工業株式会社 広報・総務部

石黒 友梨

会社説明会など、株主・投資家の皆さまと直接お会いする際は、会社の業績や戦略をできるだけわかりやすく説明するよう心掛けています。少しでも多くの方にブラザーについて理解いただき、「ブラザーっていい会社だね。」と言われるよう、今後も株主・投資家の皆さまの立場に立って、情報を発信していきたいと考えています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

株主とともに

外部からの評価

■社会的責任投資株価指数

構成銘柄に2年連続で採用

ブラザー工業は、2009年9月1日、モーニングスター株式会社の算出する「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)※」の構成銘柄に2年連続で採用されました。

近年、投資家は、従来の財務分析による投資基準に加え、社会的な公正さや企業倫理、地球環境や社会貢献などに対し、責任を果たしているかを投資基準として捉えるようになってきました。

このような社会的責任投資(SRI：Socially Responsible Investment)が成長する中、ブラザーグループはCSR経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んできました。

ブラザーグループはこれからも、中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、さらなる事業の成長を目指すとともに、「Brother」を、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバルなブランドとして確立いたします。

MS-SRI モーニングスター社会的責任投資株価指数 Morningstar Socially Responsible Investment Index

▶MS-SRI サイト
http://www.morningstar.co.jp/sri/index.htm

※「モーニングスター社会的責任投資株価指数」は、モーニングスター株式会社が算出する国内初のSRI株価指数で、
国内上場企業約3,600社の中から、社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化したものです。

（記載されている情報は、2009年9月1日時点のものであり、予告なしに変更される場合があります。）

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

ブラザーグループは、所属する国や地域に対する貢献を
常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を
可能な限り分担することによって、
よき企業市民となるよう努力します。

■ グローバルな社会貢献活動

・社会貢献活動の基本的な考え方

■ 日本での社会貢献活動

・カラオケボックスを通じて犯罪防止に貢献
・チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若起業塾」

■ 米州での社会貢献活動

・ブラジルの小学生に地球環境を考える機会を

■ 欧州での社会貢献活動

・自身の成長と社会をよりよくするための若者育成
プログラムを支援

■ アジア・オセアニアでの社会貢献活動

・縫製工場の人財育成を支援

■ 中国での社会貢献活動

・子どもたちに手づくりの楽しさを伝える

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

■社会貢献活動の基本的な考え方

ブラザーグループ全体で統一感を持って活動を推進

ブラザーグループでは、「所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力する」という「ブラザーグループ グローバル憲章」の考え方に基づき、各国・地域の拠点でさまざまな社会貢献活動を行っています。2007年3月には、効果を明確にした継続的な社会貢献活動をグローバルに推進するため、『ブラザーグループの社会貢献活動の基本的な考え方』を制定しました。

ブラザーグループの社会貢献活動の基本的な考え方

1. ブラザーグループにおける社会貢献活動とは

ブラザーグループの社会貢献活動は、中長期ビジョン「グローバルビジョン21」達成に向けたCSR経営の実践のひとつです。

したがってその実践にあたっては「ブラザーグループのCSR経営の基本的な考え方」における「ブラザーグループのCSR経営を実践するための行動」に示される段階を踏んだ、マネジメントシステムに落とし込まれた行動であることが重要です。

2. 活動選定の基準

ブラザーグループが実施する社会貢献活動は、以下の範囲です。

1) 次の条件を満たし「事業の成長」につながる活動
   (1) ブラザーが保有する資源が活きる
   (2) ステークホルダーからの要請や期待へただ対応するだけでなく、それらを機会として捉え積極的に関わっていく
   (3) 従業員が共感し、誇りにつながる
2) 社会影響の大きい案件（例：大規模災害）

※「事業の成長」につながる要素の例
「ブランドイメージ向上」「従業員の学びと成長」「地域での事業の円滑な実施」
「優秀な人財確保」「社会ニーズの把握と将来の顧客理解」など

そして、2009年7月には、ブラザーグループ全体でよりグローバルに統一感を持った社会貢献活動を推進していくため、上記の基本的な考え方に加え、下記の方針のもと活動をさらに絞っていきます。

(1)地球環境への配慮に関連した活動
(2)ブラザーグループの事業に関連した活動
(3)「地域」「人づくり（従業員を含む）」を意識した活動

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

2009年度の取り組み

ブラザーグループのいくつかの拠点では、環境保護団体の支援や従業員参加の森林保全活動など、地球環境へ配慮した活動をグローバルで実施しています。これらの活動の多くは、従業員による環境活動をポイントとして貯蓄する「ブラザーエコポイント活動」で貯めたポイントを活用して実施されています。

事業に関連した活動としては、ブラザーソーイングマシン(西安)※で農村部の女性を対象としたミシンや縫製技術の技能習得支援などに取り組みました。

また、「地域」「人づくり」を意識した活動では、ブラザー工業におけるボランティア活動推進の試みとしてボランティア体験企画を実施しました。そしてその中から、モノ創りをテーマとするボランティア活動やミシンを活用した手づくりチャリティー活動などに取り組む自発的なグループが誕生するといった新たな動きもありました。

各国・地域の社会貢献活動事例(分野別)

活動分野	活動分野		活動拠点
地球環境への配慮に関連した活動	ブラザーエコポイントを展開する取り組み		ブラザー工業 各国・地域の製造・販売拠点
ブラザーグループの事業に関連した活動	製品や技術を活用	製品を活用した次世代向け理科教育「親子モノ創り教室」	ブラザー工業
	従業員の能力を活用	従業員講師が地元中小企業やNPOの業務改善を支援	ブラザーU.K.
		農村部の女性にミシンや縫製技術の技能習得を支援	ブラザーソーイングマシーン(西安)※
「地域」「人づくり」を意識した活動	・起業を目指す人財を支援する「東海若手起業塾」 ・従業員によるボランティア活動の推進		ブラザー工業
	挑戦を通じて健全な若者を育成する表彰プログラムへ協賛		ブラザーインターナショナルコーポレーション(アイルランド)

※ブラザーソーイングマシーン(西安)は西安ブラザーインダストリーズと、2010年6月に合併し、ブラザーマシナリー(西安)となりました。

各国・地域が連携してさらにグローバルな取り組みを

ブラザーグループでは今後、事業に関連している、あるいは従業員が参加する社会貢献活動につき、各国・地域の拠点と手法を共有しグローバルな展開を図っていきます。具体的な例として、日本で実施する「親子モノ創り教室」の教材を英語化し、海外の拠点で開催することなどを計画しています。

また2010年5月には、クリック募金を通じて、ブラザーグループが世界各地で展開する環境社会貢献活動などをグローバルに統一感を持って発信していくウェブサイト「brotherearth.com」を公開し、より多くのステークホルダーの皆さんにブラザーの取り組みを伝えています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

日本での社会貢献活動

■カラオケボックスを通じて犯罪防止に貢献

警察庁の「架空請求詐欺防止キャンペーン」に協力

被害者の6割が、30代以下の若者といわれる架空請求詐欺（振り込め詐欺の1つ）。ブラザー工業のグループ会社で業務用カラオケ事業を展開するエクシングは、幅広い年齢層の方々にご利用いただいているカラオケボックスを通じて、警察庁の推進する「架空請求詐欺防止キャンペーン」に協力しました。

キャンペーンは、2009年7月27日から9月30日まで実施され、業界団体に加盟するカラオケ各店舗で架空請求詐欺防止キャンペーンのポスターを掲示するとともに、エクシングの通信カラオケ「JOYSOUND」の最新機種「HyperJoy WAVE」設置店を中心に、カラオケが選曲されていない時、キャンペーンの映像を放映し、身に覚えがない代金請求には応じないよう“だまされないゾウ”が呼びかけました。

エクシングは、警察庁や業界団体など関連団体との積極的な協力体制のもと、カラオケの娯楽性を追求しつつ、社会的な要請に応えていきます。

キャンペーンキャラクター「だまされないゾウ」

架空請求防止キャンペーンポスター

架空請求防止キャンペーン映像画面

■チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

「東海若手起業塾」

近年、日本では多様な社会的課題の解決や地域の活性化などにビジネスとして取り組む若者が増えています。しかし、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークが不足しているために、さまざまな経営問題に解決策を見出せないこともあります。

そこでブラザー工業は、2008年、本社所在地である東海地域の若手起業家を支援するために、4つのNPOが協働で運営する「東海若手起業塾」への協賛を開始しました。この塾では、支援を希望する起業家に対して、事業戦略検討会を開催したり、消費者とともに製品開発する機会を提供するなど、それぞれの事業を成長軌道に乗せるためのさまざまな活動を実施しています。2009年4月からは、塾を運営する実行委員会に新たにNPOが1つ加わり、より充実した支援体制となりました。

東海若手起業塾に参加した若き起業家

2009年4月、第2期の支援対象者が募集されました。起業家支援に実績のある川北秀人氏（IIHOE代表）ら4名の審査委員による選考の結果、6月30日に5名の起業家が選出されました。起業家はその後、2010年3月の最終成果報告会までの9ヶ月の期間、「東海若手起業塾」の実行委員会とともに、ビジネスモデルや事業戦略の質の向上を目指しました。

ⓒ2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

日本での社会貢献活動

2009年度、「東海若手起業塾」第2期の支援対象者と従業員とのダイアログを実施

チャレンジ！ダイアログ

第2期は、「東海若手起業塾」の実行委員会による支援に加え、起業家とブラザー従業員の連携を深めることにより、支援の幅を広げてきました。

2009年10月にはブラザーの従業員との対話を通じて起業家の課題解決を支援する試みとして、二人の起業家を対象として、「チャレンジ！ダイアログ」を開催しました。光技術を生かした新しい農業を展開している岩井万祐子さんとは、商品企画を経験したことがある従業員が対話をし、小規模農家・一般家庭向けの高機能野菜栽培装置の商品アイデアや、商品の企画・開発・製造において重視すべきポイントについて意見を交換しました。また、外国人留学生の就職サポートビジネスを手がける張敬清さんとは、人事部のキャリア開発担当者や、外国人を部下に持った経験のある管理職、外国人従業員が対話し、留学生の採用事情などについて意見を交換しました。現場を経験した実務者ならではの体験談やアドバイスは、参加した二人の起業家にはたいへん有意義なものでした。

また、2009年8月には、グリーンツーリズムのための山の家の運営や、災害で被害を受けた農地の再生など、第１期生も含めた支援対象起業家を従業員がボランティアでサポートしました。また、2009年12月には、「チャレンジ精神」や「お客様視点の大切さ」などをテーマに、支援対象起業家と従業員が意見交換をする「チャレンジ！フォーラム」を開催し、起業家と従業員あわせて約160名が参加しました。ブラザーの従業員にとっても、仕事への熱意やチャレンジ精神を学ぶ良い機会になりました。

支援対象起業家の成長に着実に貢献

2009年9月には、東海若手起業塾に第１期生として参加した静岡県浜松市の「ヘアサプライPeer」代表者佐藤真琴さんが、抗がん剤治療などによる女性の脱毛をケアするビジネスで、第8回日本商工会議所女性起業家大賞の、スタートアップ部門特別賞を受賞しました。また、2010年4月には、第2期生として参加した岩井万祐子さんが、経済産業省と農林水産省が共同で取りまとめた「農商工連携ベストプラクティス30」に選出されるなど、東海若手起業塾の支援の成果は、起業家の成長に着実につながっています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

米州での社会貢献活動

■ブラジルの小学生に地球環境を考える機会を

「地球環境を守ろう」をテーマに絵画コンテスト実施

ブラザーインターナショナルコーポレーション(ブラジル)(以下BIC(ブラジル))は、2010年4月、サンパウロ市の小学校と協働し、4年生を対象に「地球環境を守ろう」をテーマとする絵画コンテストを実施しました。

このコンテストは絵を描くことを通じて、子供たちに環境保護や自らの行動が環境に与える影響を考えてもらうとともに、賞品として用意したパソコンや書籍などを活用し、さらに環境に関する知識や情報、そして文化に触れる機会を増やしてほしいと開催されました。

コンテストには公募形式で参加を募ったところ、先生の指導のもとで生徒たちが描きあげた力作104点が集まりました。審査にあたったBIC(ブラジル)の従業員8名は、芸術的観点から評価するだけではなく、「環境へ配慮のテーマが発信されているか」も選考基準に1次～3次審査を経て、3点の優秀作品を選びました。

5月に行われた表彰式には、生徒とそのご家族、先生とともにBIC(ブラジル)の関係者が列席し、第1位の生徒にはパソコンとブラザーのプリンターが、2位・3位の生徒には図書券が贈られました。

BIC(ブラジル)は、今後も地域社会に根差した環境・社会貢献活動に取り組んで行きます。

絵画コンテスト1位作品

コンテストに参加した生徒のみなさん(表彰式で)

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

欧州での社会貢献活動

■自身の成長と社会をよりよくするための若者育成プログラムを支援

BIC(アイルランド)が名誉ある「Gaisce大統領賞」の諮問メンバーに

ブラザーインターナショナルコーポレーション(アイルランド)(以下BIC(アイルランド))は、2008年1月、「Gaisce大統領賞」評議会の名誉ある諮問メンバーに選ばれました。

「Gaisce大統領賞」は、アイルランド政府が未来を託すにふさわしい15歳～25歳の有能な若者を顕彰しようとアイルランド大統領の後援のもと1985年に設けたもので、Gaisceとはアイルランド語で「偉業、輝かしい業績または挑戦」を意味します。

表彰プログラム参加者の若者たちは「高齢者支援や地域奉仕、スポーツ、コンピュータや楽器演奏の技能習得、冒険」の4部門で自主目標を掲げその達成に向けて努力していきます。プログラムの実践にあっては大統領賞リーダー(PAL)がその指導を行い、目標達成者には大統領賞が授与されます。

「Gaisce大統領賞」金賞受賞者

BIC(アイルランド)は、目標へのチャレンジを通じて健全な若者を育成しようというこの表彰プログラムの主旨に共感。CSR活動の一環として2008年からGaisceのプログラムに毎年15,000ユーロを寄贈してきました。諮問メンバーに選任されたのは、その貢献が評価されたもので、アイルランド大統領出席のもと年1回行われる表彰式には名誉招待客として出席します。

若者の潜在能力は計り知れず、その成長の後押しができるのは、地域社会に根ざす企業市民として喜ばしく、誇りでもあります。BIC(アイルランド)は、今後もこうした機会を通して、社会との連携を深めていきたいと考えています。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

■縫製工場の人財育成を支援

バングラデシュとインドでセミナー開催

工業用ミシン・工作機械を扱うM&Sカンパニーは、2009年7月～11月、ブラザーインターナショナル（シンガポール）、ブラザーインターナショナル（インド）と連携して、バングラデシュとインドの縫製工場を対象に、生産管理者のセミナーを開催しました。

これは、人財育成を通じて発展途上国の技術支援を行っている財団法人海外技術者研修協会（AOTS）※に協力するプログラムで、ブラザーは15年以上前から縫製技能・生産管理・人財育成などのノウハウ提供を通じて、品質・生産性向上のサポートを続けています。

講師の話に熱心に耳を傾ける受講者（インド：デリー）

バングラデシュでは、ダッカとチッタゴンの2都市で90名が、インドではデリーとチェンナイで96名が、安定品質・納期厳守・目標コストをテーマに実務的な研修を受講しました。両国とも縫製産業が盛んで、特にバングラデシュでは縫製品の輸出が経済を支える中核産業だけに、受講者の目は真剣そのもの。セミナー終了後に「より生産性を改善できるラインレイアウトを紹介してほしい」「当社の工場で具体的に助言してほしい」などの要望も寄せられ、講師陣も大きな手応えを感じました。なお、セミナー受講者には、AOTSからブラザーを通じて修了証書が授与されました。

※Association for Overseas Technical Scholarship
1959年に設立された日本初の民間による技術協力機関。主務官庁は経済産業省。

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

■子どもたちに手づくりの楽しさを伝える

小学校に家庭用ミシンを寄贈し、ミシン教室を開催

2009年度、ブラザー工業は中国縫製機械協会（CSMA）を通じて北京市東城区にある史家小学校に10台の家庭用ミシンを寄贈しました。5月11日に史家小学校で贈呈式を開催し、校長先生からは「子供たちがミシンの使い方を習得できる機会を与えてくれたブラザーに感謝します」との言葉をいただきました。

また、贈呈式の後にはミシン教室を開催しました。4年生40名がブラザー中国 LTD.（以下BCN）の従業員の助けを借りながら巾着袋などの小物を作りました。

ほとんどの子供たちにとってミシンを使うのははじめての体験だったようで、完成した作品を見てとても喜んでいました。

BCNは今後もこうしたミシン教室を継続的に開いてミシンの使い方を多くの人に教え、手づくりの楽しさを伝えていきます。

ミシン教室

ミシン贈呈式

©2010 Brother Industries,Ltd. All Rights Reserved.